

駒沢(5)遺跡Ⅱ 駒沢(6)遺跡Ⅱ

—県道八戸野辺地線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2015年3月

青森県教育委員会

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成 25 年度に県道八戸野辺地線道路改良事業予定地内に所在する駒沢(5)遺跡、および駒沢(6)遺跡の発掘調査を実施しました。

本事業に伴う両遺跡の発掘調査は、平成 22・23 年度にも三沢市教育委員会および青森県埋蔵文化財調査センターが実施しており、縄文時代の落とし穴とされる溝状土坑を主体とした遺構を検出しています。

本報告書は、平成 25 年度に実施した駒沢(5)遺跡、および駒沢(6)遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。今回の調査でも、これまでの調査成果と同様、溝状土坑などの遺構を検出し、両遺跡が縄文時代の狩猟場として利用されたことが改めて明らかとなりました。

この成果が、今後、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、また、地域の歴史を解明する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県県土整備部道路課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施から出土品の整理、調査報告書の刊行にあたってご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 三上 盛一

例　言

1 本報告書は、青森県県土整備部道路課による県道八戸野辺地線道路改良事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成 25 年度に発掘調査を実施した三沢市駒沢(5)遺跡、駒沢(6)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は駒沢(5)遺跡 3,700 m²、駒沢(6)遺跡 600 m²、両遺跡合わせて 4,300 m²である。

なお、同事業に伴う両遺跡の発掘調査は、三沢市教育委員会が平成 22 年度に実施し、同年度に報告書（「駒澤(5)遺跡・駒澤(6)遺跡」三沢市埋蔵文化財調査報告書第 24 集）が刊行されている。青森県埋蔵文化財調査センターが平成 23 年度に実施した調査成果については、平成 24 年度に報告書（「駒澤(5)遺跡・駒沢(6)遺跡（青森県埋蔵文化財調査報告書第 529 集）」）を刊行している。

- 2 駒沢(5)遺跡の所在地は、青森県三沢市大字三沢字猫又外、青森県遺跡番号は 207061 である。駒沢(6)遺跡の所在地は、青森県三沢市大字三沢字猫又外、青森県遺跡番号は 207062 である。
- 3 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県県土整備部道路課が負担した。

- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間 平成 25 年 9 月 3 日～同年 11 月 14 日

整理・報告書作成期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

- 5 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター鈴木文化財保護主幹、秦文化財保護主査が担当し、文末に執筆者名を記した。依頼原稿については文頭に執筆者名を記した。

- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託等により実施した。

空中写真撮影 株式会社 シン技術コンサル

遺物写真撮影 シルバーフォト、フォトショップいなみ

放射性炭素年代測定 株式会社 加速器分析研究所

火山灰分析 調査員 柴 正敏

石器の石質鑑定 調査員 松山 力

遺跡の地形・地質原稿執筆 調査員 松山 力

- 7 本書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複写・加工して使用した。

- 8 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第 X 系による。挿図中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。

- 9 遺構については、その種類を示すアルファベットの略号と算用数字を組合せた略号を付した。基本的な略号は以下のとおりである。

SK- 土坑 SV- 溝状土坑 SX- 用途不明遺構

- 10 遺物は、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を付した。略号は以下のとおりである。

P- 土器 S- 石器 C- 炭化物

- 11 基本土層・遺構内堆積土層の色調表記等には、『新版標準土色帖 2004・2005 年度版』(小山正忠・竹原秀雄)を使用した。遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。
- 12 遺構の土層断面図の縮尺は、原則 1/60 として挿図ごとにスケールを付し、各図に水準点を基にした海拔標高を付した。遺構実測図に使用した網掛けの指示は、図ごとに説明を付した。
- 13 遺物実測図の縮尺は、原則、土器類・礫石器 1/3、剥片石器は 1/2 として挿図ごとにスケールを付した。遺物実測図に使用した網掛けの指示は、以下のとおりである。
- 敲打痕・タタキ: [REDACTED] 磨面・スリ: [REDACTED]
- 14 図版・表番号は通し番号を付したが、第 5 章理化学的分析の原稿は、各原稿内での通し番号とした。
- 15 遺物実測図には、挿図ごとに 1 から通し番号を付けた。
- 16 遺構一覧表における（ ）内の数値は残存値である。遺物観察表における（ ）内の数値は復元値、〔 〕内の数値は残存値である。また、観察表中では以下の略称を用いた。
○横回・斜回・縦回 = ○を用いた横位・斜位・縦位方向の回転施文 ○○側圧 = ○○を用いた側面圧痕・撲糸圧痕 単軸○ = 単軸絡条体第○類 結束○ (△+□) = △と□の結合第○種
- 17 遺物写真には、遺物実測図と共に図番号を付した。写真的縮尺は不定である。
- 18 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 19 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た（敬称略、順不同。）
- 三沢市、三沢市教育委員会、川村正、島口天、長尾正義、工藤司

目 次

序

例 言

目 次

挿図目次

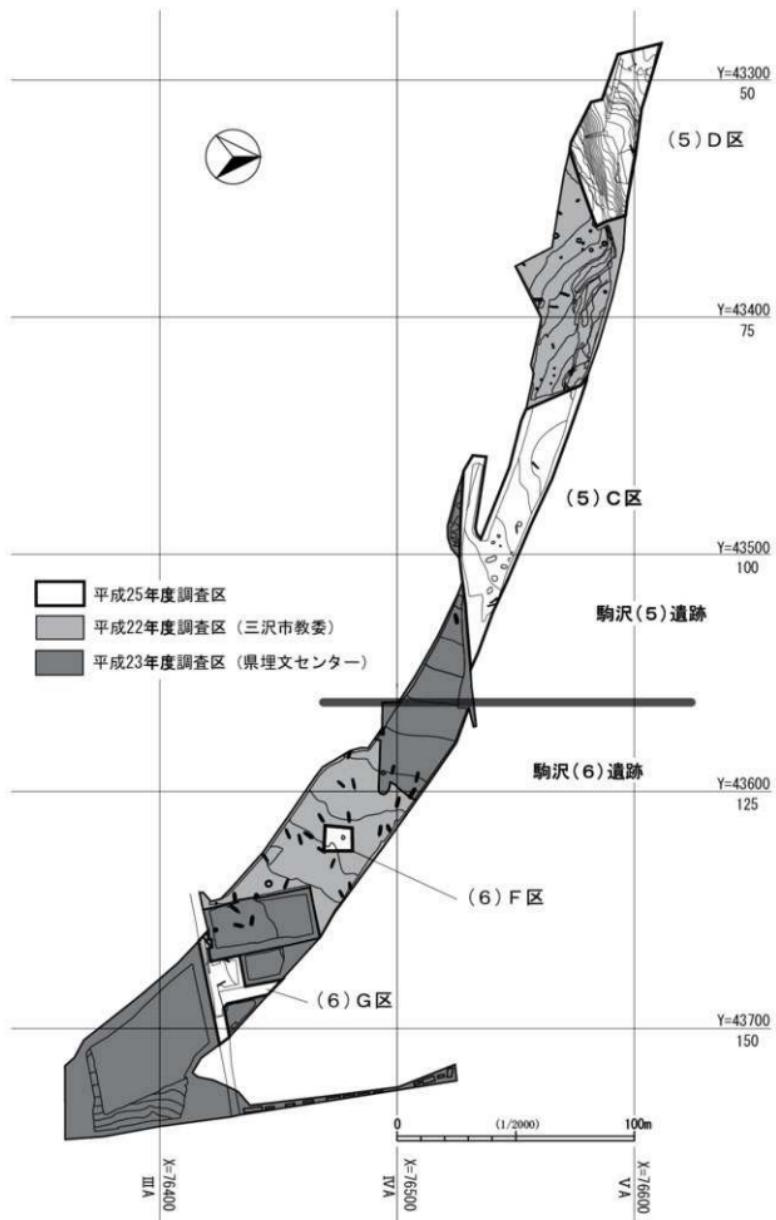
第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査方法	1
第3節 調査経過	3
第2章 遺跡の環境	5
第1節 地形と地質	5
第2節 歴史的環境	14
第3章 駒沢(5)遺跡の検出遺構と出土遺物	16
第1節 調査概要	16
第2節 検出遺構	19
1 土坑	19
2 溝状土坑	23
3 用途不明遺構	24
第3節 出土遺物	28
1 土器	28
2 石器	29
第4章 駒沢(6)遺跡の検出遺構と出土遺物	32
第1節 調査概要	32
第2節 検出遺構	32
1 溝状土坑	32
2 用途不明遺構	34
第3節 出土遺物	36
第5章 理化学的分析	37
第1節 放射性炭素年代測定	37
第2節 火山灰分析	41
第6章 総 括	45
引用・参考文献	46
遺構一覧表	47
遺物觀察表	47
写真図版	49
報告書抄録	

挿図目次

図 1	調査区位置図	
図 2-1	標準土層断面図	9
図 2-2	基本土層（駒沢（5）遺跡C区・駒沢（6）遺跡G区）	10
図 3-1	駒沢（5）遺跡 D区1トレンチ南壁土層（地滑り層）	11・12
図 3-2	駒沢（5）遺跡 D区1トレンチ南壁の土・地層断面概略図	13
図 4	遺跡位置図	15
図 5	駒沢（5）遺跡 C区遺構配置図	17
図 6	駒沢（5）遺跡 D区遺構配置図	18
図 7	駒沢（5）遺跡 土坑（SK）	22
図 8	駒沢（5）遺跡 溝状土坑（SV）	25
図 9	駒沢（5）遺跡 用途不明遺構（SX）	27
図 10	駒沢（5）遺跡 C区出土遺物	29
図 11	駒沢（5）遺跡 D区出土土器	30
図 12	駒沢（5）遺跡 D区出土石器	31
図 13	駒沢（6）遺跡 遺構配置図	33
図 14	駒沢（6）遺跡 溝状土坑（SV）・用途不明遺構（SX）	35
図 15	駒沢（6）遺跡 F・G区出土遺物	36

写真目次

写真図版 1	駒沢（5）・（6）遺跡 調査区遠景	50
写真図版 2	駒沢（5）遺跡 出土遺物・地滑り痕	51
写真図版 3	駒沢（5）遺跡 C区 調査区完掘・基本土層	52
写真図版 4	駒沢（5）遺跡 C区 土坑	53
写真図版 5	駒沢（5）遺跡 C区 土坑・溝状土坑	54
写真図版 6	駒沢（5）遺跡 C区 溝状土坑・用途不明遺構	55
写真図版 7	駒沢（5）遺跡 D区 調査区完掘・地滑れ痕・土坑	56
写真図版 8	駒沢（5）遺跡 D区 調査区全景・地滑り痕	57
写真図版 9	駒沢（5）遺跡 D区 4トレンチ・溝状土坑・用途不明遺構	58
写真図版 10	駒沢（6）遺跡 F・G区 調査区全景・基本層序・用途不明遺構	59
写真図版 11	駒沢（6）遺跡 G区 溝状土坑	60
写真図版 12	出土遺物 土器	61
写真図版 13	出土遺物 石器	62



第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成19年度、青森県県土整備部道路課（以下、「道路課」）から、県道八戸野辺地線道路改良事業に係る埋蔵文化財の取扱いについて青森県教育庁文化財保護課（以下、「文化財保護課」）に照会があり、翌20年6月に現地踏査、21年5月に試掘調査を実施した（青森県教委2010）。その結果を受け、調査可能な区域から順次発掘調査を実施することとし、平成22年度には、三沢市教育委員会が（三沢市教委2011a）、平成23年度には青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施した（青森県教委2013）。なお、平成23年度に、駒沢（5）遺跡、駒沢（6）遺跡とも埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が行われている（青森県教委2012）。

その後、平成24年10月に上北地域県民局地域整備部道路施設課（以下「道路施設課」）及び文化財保護課、県埋蔵文化財調査センターによる現地協議を行い、平成25年度に未調査区域の発掘調査を実施することとした。

平成25年7月にも三者による事前の現地協議が行われ、同年9月から青森県埋蔵文化財調査センターによる発掘調査が実施された。

本報告に係る土木工事等のための発掘に関する通知は、両遺跡とも上北地域県民局から平成25年8月22日付け上県局整備第811号でなされ、これを受けて青森県教育委員会教育長から、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査の実施を平成25年8月30日付け青教文第970号で通知されている。

（中嶋）

第2節 調査方法

1 発掘調査の方法

平成22・23年度に県埋蔵文化財調査センターおよび三沢市教育委員会が実施した発掘調査において、駒沢（5）・（6）遺跡とともに、縄文時代と平安時代の遺構・遺物が確認されていたことから、縄文時代と平安時代の遺構調査に重点をおいた。なお、平成25年度は、駒沢（5）・（6）遺跡とともに調査対象区は2地区あり、地区名は、平成23年度調査からの通し番号をつけて、駒沢（5）遺跡はC区とD区、駒沢（6）遺跡ではF区とG区と呼称した。

【測量基準点・水準点の設置・グリッド設定】測量基準点と水準点については、本事業にあたり設定された用地幅杭等を用い、調査区内および周辺に任意杭を増設して使用した。グリッドは世界測地系による公共座標値を使用し、X=76200.000、Y=43100.000を原点とし、1辺4mで設定した。各グリッドは、南から北にローマ数字（I～V）とアルファベット（A～Y）を組み合わせ、西から東に算用数字を付し、南西隅の組み合わせで呼称した。原点はIA-0である。なお、測量基準点、水準点は平成22年以前に設置されており、使用した値は平成23年の東日本大震災による影響を受ける前のデータとなっている。本報告では混乱を避けるため、測量時のデータで提示している。国土地理院のPatchJGD Ver.1.0.1（補正パラメータファイル：touhokutaiheiyouoki2011.par）を用いて変動後の原点座標値を求めるとき、X=76199.4356、Y=43100.3825となる。また国土地理院のPatchJGD（標高版）

Ver.1.0.1（補正パラメータファイル:touhoku2010_h.par 及び touhokutaiheiyouoki2011_h.par）を用いて水準点（KBM3-2 31560m）の変動後の標高値を求めると、31.537m となる。

〔基本土層〕 遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、原則として両遺跡の全地区で統一した。

〔表土等の調査〕 平成 21 年度に青森県教育庁文化財保護課が実施した試掘調査、および当センターと三沢市教育委員会が行ったこれまでの調査成果を踏まえ、状況を確認しながら重機を併用し、掘削の省力化を図るように努めた。出土した遺物は、適宜層位ごとに取り上げた。

〔遺構の調査〕 検出遺構は、原則として確認順に種類別の番号を付して精査を行った。番号は平成 23 年度調査からの通し番号である。堆積土層観察用のセクションベルトは、検出遺構の形態、規模等に応じて基本的に 2 分割で設定した。遺構内の堆積土層は算用数字を付けた。遺構の平面図は、主に株式会社 CUBIC 製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成したが、遺構の堆積土層断面図は、簡易造り方測量等で縮尺 1/20 の実測図を作成した。

〔遺物包含層の調査〕 上層から層位ごとに人力で掘削した。遺物は、原則として層位ごとにグリッド単位で取り上げた。

〔写真撮影〕 写真撮影は 35mm フィルムカメラとデジタルカメラを使用し、発掘作業状況、土層の堆積状況、遺物の出土状態、遺構の検出状況、精査状況、完掘後の全景等について記録した。また、業者に委託して、ラジコンヘリによる遺跡及び調査区全体の空中写真撮影を行った。

2 整理・報告書作成作業の方法

調査では、駒沢(5)遺跡では、縄文時代の土坑 1 基、溝状土坑 5 基、平安時代の用途不明遺構 2 基、時期不明の土坑 8 基、用途不明遺構 2 基の他、大規模な地滑り痕跡等を検出した。駒沢(6)遺跡では、縄文時代の溝状土坑 3 基、平安時代の用途不明遺構 1 基を検出した。遺物は、両遺跡合わせて縄文時代と平安時代の土器・石器が 2 箱出土した。

〔図面類の整理〕 遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業では、これを原則として縮尺 1/20 で図化し、簡易造り方測量で作成した堆積土層断面図等との図面調整を行い、遺構配置図を作成した。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘調査時の所見等を整理した。

〔写真の整理〕 35mm モノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mm カラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは遺構ごとのフォルダに整理して、HD に保存した。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕 土器の洗浄は調整が消えないように留意した。遺物の注記は、遺物取り上げ時の遺物カードをもとに、調査年度、遺跡名、出土地点、遺構名、層位、取り上げ番号などを機械により略記した。石器や土器細片など直接注記できない遺物は収納袋に注記し、カードとともに収納した。接合・復元にあたっては、出土地点・出土層位等の整理を行った。

〔報告書掲載遺物の選別〕 遺物全体の分類を行った上で、遺構の構築および廃絶年代等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、所属時代・型式・器種などの分かれる資料を主に選別した。

〔遺物の観察・図化〕 遺物の図化は当センター直営で行った。個々の遺物を目視及びルーペで観察し、遺物の特徴を適切に表現するように図化した。掲載用に選別した遺物については、規模や特徴を記載した観察表を作成した。

〔遺物の写真撮影〕 実測図では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法等を適切に伝えられるよう留意し、業者に委託して行った。

〔理化学的分析〕 遺構の年代や遺物の詳細を調査するため、放射性炭素年代測定、火山灰分析を委託等により行った。これらの分析結果は、第5章で報告を行っている。

〔遺構と遺物のトレース・版下作成〕 遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、手作業と(株)CUBIC製「トレースくん」、Adobe社製Illustratorを用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、手作業とAdobe社製IllustratorまたはInDesignを用いたデジタルデータによるレイアウトを併用した。

〔遺構・遺物の検討・分類・整理〕 遺構・遺物の検討結果を踏まえて、時期・構造・変遷等について検討・整理した。

第3節 調査経過

1 発掘作業の経過

(1) 調査体制

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 柿崎 隆司（現 青森県立郷土館長）

次長 高橋 雅人

調査第一GM 中嶋 友文

文化財保護主幹 鈴木 和子（発掘調査担当者）

文化財保護主査 杉野森 淳子（発掘調査担当者・現 青森県立郷土館主任学芸主査）

専門的事項に関する指導・助言

調査員 関根 達人 国立大学法人弘前大学人文学部教授（考古学）

タ 松山 力 日本地質学会会員（地質学）

(2) 調査経過

9月上旬～中旬 環境整備を行い、調査を開始した。駒沢(5)遺跡C区では、重機による表土剥ぎ終了後、人力で遺構の検出と精査を行った。駒沢(6)遺跡では、F・G区とともに人力で表土剥ぎと遺構の検出、精査を行った。

9月下旬～10月上旬 駒沢(5)遺跡C区で、引き続き遺構の精査を進めた。駒沢(5)遺跡D区は、丘陵上部で人力による表土掘削を行い、その後、遺構検出・精査を行った。また、丘陵端部斜面の中段および下段部分にトレンチを設定して調査を行ったところ、大規模な地滑り痕跡を確認したことから、10月10日、調査員松山力氏による地形・地質の現地指導を受けた。

駒沢(6)遺跡は、G区で道路振り替えを行って現道部分の調査を実施し、駒沢(6)遺

跡の全ての調査を終了した。

10月中旬～下旬 駒沢(5)遺跡C区の道路振り替えを行い、現道部分の調査を実施し、C区の全ての調査を終了した。D区は丘陵上部の精査を終え、中段での地滑り状況の把握と、下段の遺構検出と精査を進めた。

11月上旬～中旬 駒沢(5)遺跡D区下段の調査を終了した。中段地区では、調査員松山力氏等による地形・地質の現地指導を受け、引き続き地滑り状況の把握に努めた。さらに検出した遺構の精査を行い、D区の全ての調査を終了した。

14日に発掘器材・出土品等を搬出した後に現地から撤収し、事業者側へ現場の引き渡しを行った。

2 整理・報告書作成作業の経過

(1) 整理・報告書作成作業体制

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

文化財保護主幹 鈴木 和子

文化財保護主査 秦 光次郎

(2) 整理・報告書作成作業経過

4月 写真類の整理を行った。図面類は整理と修正を開始した。出土遺物は、重量計測や接合作業などを行い、報告書掲載遺物を選別した。

5～9月 遺物の実測・拓本・トレース作業を行った。サンプル資料整理を行い、分析を行った。

10～1月 委託により写真撮影を行った。遺構図のトレース作業を進め、順次版組作業を行った。

2月 原稿・版下等が揃ったので、報告書の割付・編集を行い、入稿した。

3月 校正を経て報告書を刊行し、記録類・出土品を整理して収納した。

(鈴木)

第2章 遺跡の環境

第1節 地形と地質

日本地質学会会員 松山 力

(1) 地形

駒沢(5)・駒沢(6)遺跡は、佐々木辰夫の報告（2013.青森県教委）が述べるように、ごく緩やかに起伏して三沢市街地周辺から続くGt II面（水野・堀田1971、八戸付近の高館面、関東の下末吉面相当）とその西側斜面上にあり、その北縁には、駒沢(6)遺跡西縁から北西方に下って姉沼川沖積地に達する小沢（長さ500m余りで、本報告では「北側小沢」と仮称する）があって、駒沢(5)遺跡の北縁を画している。

駒沢(6)遺跡は高度（海拔）35～40mの平坦面上にあり。その西縁がやや傾斜する緩斜面となり、高度30m前後の平頂丘とその急斜面部に移行する。駒沢付近のGt II面は、緩斜面を段丘崖と見れば二面に分けられ、この斜面は後述する地滑りに関わってできたものかもしれない、詳細は不明なので、今後の精査が必要であろう。駒沢(5)遺跡はその平頂丘が尾根状に伸びて姉沼川沖積地に舌状に張り出す平頂部とその斜面（高度35m以下）に広がり、今回の調査域はその平頂部と西～北側斜面で、北側斜面部から「北小沢」の谷底の両側にかけて、後述する複雑な多重地滑り層が存在している。

(2) 遺跡の層序

遺跡の土・地層は、下位から上に、基盤層、褐色系色調の粘土質風化火山灰（ローム、高館火山灰）、八戸降下火山灰、黒色土類（クロボク）で構成されている。

基盤は、Gt II面（Gt II段丘面）の段丘崖に露出する地層の特徴から佐々木辰夫（2013.青森県教委）が述べているように、更新世の三沢層と考えられる。

高館火山灰層（中川・1961、大池ほか4名・1966）はGt II段丘を特徴づけるローム層である。八戸周辺から三沢付近までの高館火山灰層相当のローム層中には、何枚もの、それぞれに特徴的な層相のテフラ層を挟んでいるが、遺跡周辺では、赤・濃褐色のレッドバミス（RP、5.0万～8.2万年前・工藤らの推定値、2013）、おもに淡黄褐色の合同バミス（GP）、ビスケットバミス1（BP1、3.0万年～3.6万年前・諸文献より）、ビスケットバミス2（BP2、2.05万～2.15万年前・工藤らの推定値、2013）などの十和田火山起源テフラ（テフラ＝火山碎屑物）と、外来的洞爺火山灰（Toya、11.5～11.2万年前降下・町田ら、2003）が見られた。八戸火山灰層（中川・1961、大池ほか4名・1966）は、高館火山灰層以下の地層を覆って分布している。同火山灰層は下部の降下火山碎屑物（火山灰と軽石の互層）と上部の火碎流堆積物（八戸火碎流堆積物）で構成されている。

筆者は降下火山碎屑物を、互層する八戸軽石層を含め八戸降下火山灰層と呼んできたが、過年度に駒沢(5)・(6)遺跡の調査に当たった佐々木（2013.青森県教委）は、東北町周辺域に分布する千曳浮石層が八戸降下火山灰層にあたることから千曳軽石の名称を用いている。本稿では、八戸降下火山灰の名称を用いることにする。なお、工藤 崇（2005）は、給源火山名を付して十和田八戸テフラ（2005）と呼んでいる。

八戸降下火山灰層は、八戸周辺では3組の火山灰層と軽石層の互層で、下位の火山灰層から上にI～VI層の6層に区分されてきた（大池ら 1966、中川・1961）。厚さの異なる各層はそれぞれに北と南へ厚さを変え、個々に尖滅ないし混合して、区別にくくなる。本遺跡付近ではI層（火山灰）とVI層（軽石）とが比較的よく残されている。

上部の火碎流堆積物は当初八戸浮石流凝灰岩と呼ばれ、現在では八戸火碎流堆積物ないし十和田八戸火碎流堆積物（宝田・村岡、2004）の名称が用いられている。

地表直下の黒色土類は、おもに八戸火山灰層や高館火山灰層などの腐植によって形成された土層で、青森県東部では、南部軽石層、中振軽石層、十和田b降下火山灰（＝十和田b火山灰、十和田bテフラ）層、十和田a降下火山灰（＝十和田a火山灰、十和田aテフラ）層などの十和田火山起源のテフラと、朝鮮半島基部の白頭山に由来する苦小牧火山灰層が黒色土類に挟まれて分布している。

遺跡では、中振軽石と黒色土の混合層と、D区西部北斜面の深掘り（図3-1 駒沢(5)遺跡D区1トレンチ南壁土層）に現れた地滑り層の黒色土中に、十和田b火山灰中の軽石層や、十和田a・b両火山灰層と外来の苦小牧火山灰層の薄層ないし火山灰層が観察された。

佐々木（2013）は、駒沢(6)遺跡内の千曳軽石層＝八戸降下火山灰層と黒色土類を、上から下へ、I～VIb層の6層（うちVI層が千曳軽石）に分け、さらに高館火山灰層のRPまでをⅨ～Ⅹ層の6層に分けて報告しているが、本節では、後述する多重地滑り部の土・地層・土塊群にローマ数字を使用したので土・地層の記番号に算用数字を用いた。駒沢(5)遺跡の黒色土類から八戸降下火山灰層下底までを、上から1～9層の9層（うち6～9層が八戸降下火山灰層）に分け（図2-2上段）、駒沢(6)遺跡の八戸降下火山灰層直下の地層を10層とした。各土層で述べる厚さは図2-2上段に示した基本土層（IV N-88 グリッド）内の厚さである。なお本稿では、中振軽石について、同時降下の同質砂粒大火山灰（径2mm以下の軽石粒）も中振軽石とした。

I層は厚さ18～43cmの粘土質黒色（10YR1.7/1）土層で、佐々木（2013）のIIa層にあたる。

2層は厚さ20～50cmの粘性に乏しい黒色（10YR2/1）土層で、中振軽石（降下軽石、宝田・村岡、2004の十和田中振降下軽石、工藤-2005の十和田中振テフラ）にあたる浅黄橙色（10YR8/3～8/4）細・中粒砂大軽石粒（粒度的には火山灰）が大量に混入していて、佐々木のⅢ層にあたる。中振軽石の降下は、最近まで平均的には5,400～5,500年BP前後とされてきたが、6,100年BP（工藤、2008）前後と修正された。従って2層の形成は6,100年BP以降と考えられる。

3層は厚さ18～30cmの、やや粘性に乏しくしまってやや硬い黒色（10YR2/1）土層で、2層の軽石粒と同様の砂粒大粒子が上方ほどやや多量に混入している。3層と下記の4層が佐々木のIV層に当たると考えられる。

4層は厚さ10～34cm、ややしまった黒褐色（10YR3/1）土層で、下部に中粒砂大の灰色（10YR4/2）～浅黄橙色（10YR8/3～8/4）軽石粒が散在する。

5層は厚さ0～25cmのややしまった黒褐色（10YR3/2）～灰黄褐色（10YR4/2）土層で、中部にぶい黄褐色（10YR4/3）土層が挟在するところがある。下位の八戸降下火山灰（6～9層）に由来する粒径3～20mmの明黄褐色（10YR7/6）～黄橙色（7.5YR7/8）～浅黄橙色（10YR8/3～8/4）軽石粒が散在している。また、長さ最大5cmの根状炭化物や、粒径4～30mmの角礫様炭化物が多

量に混入している。5層は、八戸降下火山灰と上位の腐植土層との漸移層で、佐々木のV層にある。

6層はしまった12~38cm以上のにぶい黄褐色(10YR5/4~5/6)火山灰層で、粒径3~40mmの明黄褐色(10YR6/6)~橙色(7.5YR6/6)あるいは灰色(N6/)などの軽石粒が多量に混入している。また、長さ最大3cm以内の根状炭化物や、粒径4~14mmの角礫様炭化物が散在している。中川・大池ほか(1961・1966)の八戸降下火山灰層のV層(火山灰)とVI層(軽石)の混合層にある。

以下の7~9層は佐々木のVIa~VIb層にある。

7層は厚さ0~18cm、粒径2~30mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)・黄橙色(10YR8/6~8/8)・灰色(10YR5/1)などの色調を帶びた軽石の密集層で、中川・大池ほか(1961・1966)の八戸降下火山灰IV層にある。

8層はしまって硬いにぶい黄褐色(10YR5/4)砂状火山灰層で、長さ3~10mmの根状炭化物が散在している。

9層はしまりがなく軟らかい灰白色(10YR8/2)~浅黄橙色(10YR8/3)の粘土状火山灰層で、下底から上方20~23cmから上へ1cm程度の厚さで粒径3~8mmの黒色(2.5GY2/1)ラビリが密集する部分がある。その上下にも同様のラビリが散在している。9層は8層と共に、中川・大池ほか(1961・1966)の八戸降下火山灰I層にあると思われる。

10層は浅黄橙色(10YR8/3~8/4)粘土状火山灰で、粒径2~12mmのラビリを多量に挟んでいる。産状は9層と酷似するが、ほぼ全体に、まだら状に明褐色~赤褐色、あるいは明赤褐色の酸化帯が入り、径数cm以上の塊状や樹枝状に硬く石化した部分があり、沼などのような静水域への再堆積物と思われる。

(3) 地滑り層について

駒沢(5)遺跡西端部の北側小谷方に傾斜する北斜面の下半部を掘り下げたD区1トレンチ南壁の断面(図3-1)に、累重する地滑り層が観察された。セクションの地表標高は24~20m、方向は南76°東の方向から北76°西の方向へ約15.5m区間、壁面の高さ幅は4.4mである。

図3-2は図3-1を簡略化した図である。図では褐色系色火山灰をロームと一括し、特定土・地層を示す記述には図3-1の記番を用いた。

壁面の東7~8mの標高25mの所までは北70°東の方向から、傾斜角約40°(勾配4/5)で高さ約5mの段丘崖状の急斜面が迫り、壁面の後方(南側)斜面に続いている。

断面に現れた最下部土層とそれに載る地滑り土・地層群、崩壊(崖錐堆積物)土塊群を、I~VIIの7群に分け、II群はさらにIIaとIIbに区分した。

図で明らかなように、これらの土・地層群、土塊群の重なりの順序はVII群→VI群→V群→IV群→III群→IIb群→IIa群→I群となる。

VII群は最下部の地層群で、壁面の東側では厚さ50cm以上の黄褐色粘土層と、その上の厚さ最大約120cmのロームで構成されている。ロームには不規則的にレッドバミス塊がまじるなど搅乱され、また下位の粘土層も西に緩く傾斜している。壁面の西側では、厚さ30cm以上の搅乱されたロームだけが確認された。東側部分は西に張り出し下半部が急傾斜面で切られるが、西側部分は東側の最高面

より西側の最高面が1.9m低く、表面が東に緩く傾いている。

両斜面に挟まれた部分を谷底に見立てると、谷の深さは壁面で3.9m前後になる。Ⅶ群は南側の平頂部に北落ちに刻まれた山襞状の谷を埋める様に滑り落ちた崩壊土層と思われる。

VI群は、高鎧火山灰層最上部のロームが半ば土壤化したVI-2層（にぶい黄褐色ローム）と、漸移的なVI-1層（黒色土類層）で径4～20mmの堅い橙色軽石層が散在している。軽石層は八戸火山灰の軽石層由来と思われる。Ⅶ群の上部に続く風化土層と思われる。

V群は東～南側からのローム層の滑り落ちと思われるがよくわからない。

IV群は、東～東南方から西方に滑走した、ごく緩く西に傾く厚さ最大105cmの地滑り土層群で、下位から上に、幅90cm・厚さ0～60cmの褐色土塊（IV-9）、厚さ0～35cmの褐色土塊混じりのにぶい暗褐色土層（IV-8）、厚さ0～35cmのにぶい黄褐色土層（IV-7）、厚さ0～105cmの黒色土層群で累重している。

黒色土類の西半部最上部を占める厚さ最大25cmの土層はIV-1～IV-3の3層で構成され、IV-1層（黒色土）には厚さ数cmの苦小牧火山灰層が共在し、IV-2層（黒褐色土）には厚さ2cm程度の十和田a火山灰塊が断続している。IV-3層（黒褐色土）は焼土との混合層で径2cm以内の赤褐色焼土塊が断続している。下部のIV-9～IV-7層は、ローム上部から八戸降下火山灰にかけての風化土層と思われ、これらと上部の黒色土類とは指交関係にあり、黒色土類中位のIV-1層に苦小牧火山灰が存在することから、IV群の滑動は苦小牧火山灰降下後に起こった。

III群は、IV群の西半部に、断面がマウンド状に滑り込んだ厚さ50cm前後の黒色土類で、III-3層下部の西側に十和田a火山灰層、上部のIII-2層に苦小牧火山灰塊を包含している。

II群は東端から中央部にかけてのII-1からII-14までの部分（II-a群とする）と、その西側のII-15からII-17の部分（II-b群とする）の二つに分けられる。II-a群は、上からII-1～II-5のローム、II-6のレッドバミス（RP、注記ではr-p）、II-7～II-9のローム、II-10の洞爺火山灰（Toya）、三沢層の最上部と見られる粘土層と砂層で構成されている。II-b群は、ローム層最上部の風化土と思われる。II-a群が東方～南東方から滑走して他方から滑翔したII-b群の土塊に衝突して、II-b群をIII群に覆い被さるように押し上げたように見える。

I群は粘性に乏しい黒褐色土層である。

これらの土・地層群を移動させた地変の原因、時期、移動方向、移動距離は、洞爺火山灰まで達する広い三次元的な拡大発掘調査を行っていないので不明であるが、Gt II面が(6)遺跡の東側から(5)遺跡にかけて二面に分けられること、D区1トレンチ手前の急斜面を下る小道脇に見られるレッドバミスがいくつもの小断層で寸断されていることなどが関連する事象と思われる。地質学的には局部的ながら重要な地変で、今後の土地利用の安全のためにも詳細な調査が必要である。不安定な地盤であることを念頭においていた土地利用を望みたい。

主な引用・参考文献

- 大池昭二・中川久夫・七崎 修、松山 力・米倉伸之 (1966)、馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰
第四紀研究、5、p.29-35
- 工藤 崇 (2005)、十和田地域の地質、産業技術総合研究所（産総研）・地質調査総合センター
- 工藤 崇 (2008)、十和田火山、噴火エピソード E 及び G 噴出物の放射性炭素年代、火山、53
- 工藤 崇・小林 淳 (2013)、十和田火山、先カルデラ期～カルデラ形成期テフラの放射年代測定、
地質調査研究報告、第 64 卷、第 9/10 号、p.305-311
- 佐々木辰夫 (2013)、駒沢(5)・駒沢(6)遺跡、青森県埋蔵文化財調査報告書・第 529 集
- 宝田晋治・村岡洋文 (2004)、八甲田山地域の地質、産業技術総合研究所・地質調査総合センター
- 水野 裕・堀田報誠 (1971)、土地分類調査・三沢・5万分の1、国土調査、青森県
- 中川久夫 (1961)、本邦太平洋沿岸地方における下位水準静的変化と第四紀編年、東北大学理学部地
質学古生物学教室研究邦文報告、No.54、p.1-61
- 町田 洋・新井房夫 (2003)、新編 火山灰アトラス、東京大学出版会
- 松山 力・大池昭二 (1986)、十和田火山噴出物と火山活動、十和田科学博物館、第 4 号

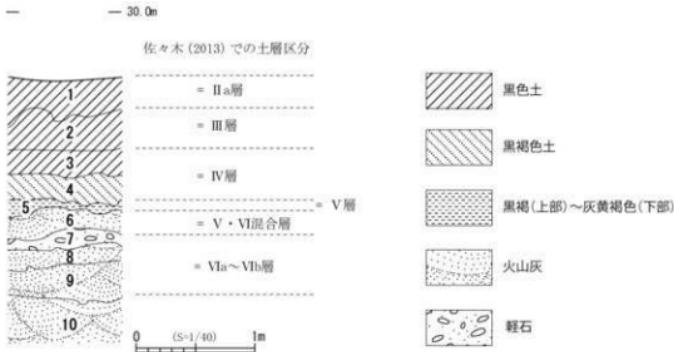


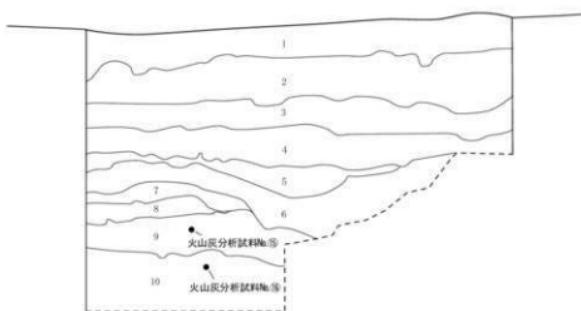
図 2-1 標準土層断面図

駒沢(5)遺跡C区・駒沢(6)遺跡II

駒沢(5)遺跡C区 (IV N-88)

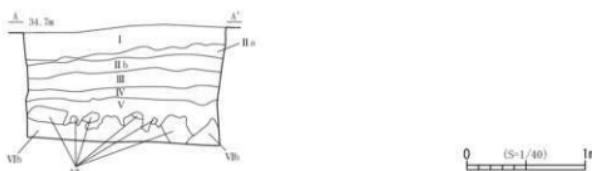
Δ 30.0m

Δ'



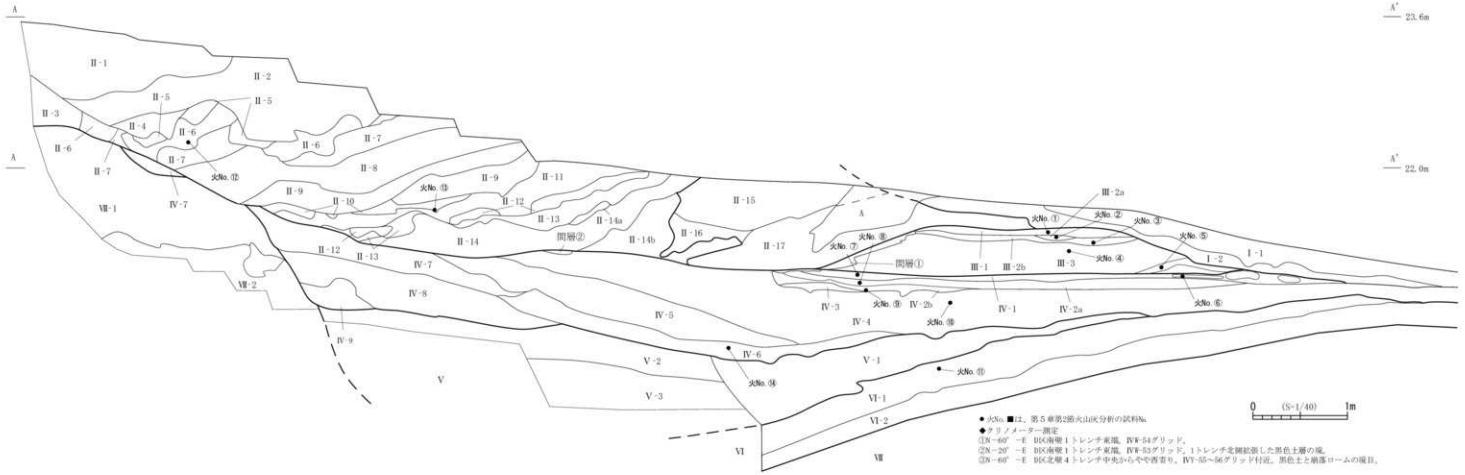
- 1層 30R 1/1 黒色土 基土層にあたり、粘土質。
 2層 10YR 2/1~4 浅褐色地錠・中粒砂(中間鮮石相当) 大粒石粒が多量に混入、粘性に乏しい。
 3層 10YR 2/1 黒色土 2層と同様石粒は比較的多く混入、やや粘性に乏しい。ややしまって固い。
 4層 10YR 3/1 黒褐色土 中粒砂の10YR 2/8(浅褐色)と10YR 3/8(浅褐色)の粒径が層間に混在、やや粘性に乏しい。ややしまって固い。
 5層 10YR 3/2 黒褐色土 10YR 3/2(黄褐色土) 中部に10YR 4/3(黄褐色土)と10YR 3/8(浅褐色)の層が互に混在。
 粒径3~25mmの10YR 7/6(黄褐色)と7-50YR 7/8(黄褐色)~10YR 7/8(浅褐色)の軽石粒が多量に混入。
 此き最も大なる層の基底炭化物や鉱物は多量に混入、シルトまでややしまる。6層の礫錠層。
 6層 10YR 5/4 に於く黄褐色~10YR 5/6 黄褐色の灰錠・粒径3~40mmの10YR 6/8(黄褐色)~10YR 6/6(暗赤褐色)と10YR 6/8(黄褐色)~10YR 6/6(暗赤褐色)の軽石粒が多量に混入。
 長さ3cm以上の状況ある)は厚さ4~10mmの角錐炭化物が散在。しまって固い。八戸火山灰相当。
 7層 黄褐色系軽石密錠層 粒径2~20mmの10YR 7/6(黄褐色)~10YR 7/8(黄褐色)~10YR 7/8(浅褐色)の軽石粒が密に混在。
 一部に下部部厚さ3~4cmのシート状火山灰を伴う。その上の直上部は厚さ3~10mmの火山灰層。
 粒径3~15mmの角錐炭化物が部分的に散在。しまって固い。八戸火山灰相当。
 8層 10YR 5/4 に於く黄褐色・砂代灰岩質・長さ3~10mmの樹代灰岩質(樹代灰岩の他)が散在。しまって固い。八戸火山灰相当。
 9層 10YR 6/2 黑褐色土 10YR 6/2~8(浅黄色土)火山灰層 下部から上部20~25mmの部分に粒径3~8mmの2,500t/1黑色火山灰層が
 厚さ1mm程度で変動する部分があり、同じく火山灰層。しまりなくやわらかい。
 10層 10YR 6/2~8/4 浅黃褐色土・灰褐色灰層粒径2~12mmの火山灰を多量に含む。
 (ほぼ全体に明褐色~赤褐色あるいは明黄色の礫錠層がまだ状に入り。石化した部分、侵食cm以上なし)には樹枝状に石化した部分もあり。

駒沢(6)遺跡G区 (III I-143・144)



- I層 表土
 IIa層 10YR 2/1 黒色土 中粒浮石20%、部分的に薄く確認される。層厚5~10cm。(市教委Ⅱ層)
 IIb層 10YR 2/1 黒色土 中粒浮石20%、層厚約20cm、全層にあり、古代耕作跡出露。(市教委Ⅲ層)
 III層 10YR 2/2~10YR 2/2 黑褐色土 中粒浮石25%、細粒褐色土10%、層厚10~20cm、湖水浸漬層出露。(市教委Ⅳ層)
 IV層 10YR 3/3 細粒褐色土 10YR 3/2黑褐色土10%、黄褐色ローム粒(6)~15mm 10%、粘土質、層厚10~20cm、礫錠層。(市教委Ⅴ層)
 V層 10YR 3/4 黄褐色土 黄褐色ローム15%、軽石(6)~15mm 10%、粘土質、層厚10~20cm、礫錠層。(市教委Ⅵ層)
 VIa層 10YR 4/6 黄褐色土 黄褐色ローム、軽石(6)~15mm 10%、層厚5cm前後。(市教委Ⅶ層)
 VIb層 10YR 5/6 黄褐色ローム 軽石(6)~15mm 10%、層厚30~40cm。(市教委Ⅷ層)

図 2-2 基本土層 (駒沢(5)遺跡C区・駒沢(6)遺跡G区)



A層 10Y84/4 黄褐色土場とT. 9/14/A4 黄褐色土塊との混合土。網状路のカクラン。

I-1層 10Y92/2 黑褐色土。粘性に乏しい、根多量。

I-2層 10Y92/2 黑褐色土。心やにまりあり、粒度細い。φ1~3mmの10Y83/1~8/4(浅黄褐色)・7. 5/18/4~8/5(浅黄褐色)

-7. 5/17/7(黄褐色)の鉄石粒が混在する。φ2×3mm及び3~4mmの7. 5/18/5(浅黄褐色)・10Y83/4(浅黄褐色)の鉄石粒が混在する。

I-3層 10Y85/5 黃褐色火山岩層。

II-1層 7. 5/15/5 黄褐色土・火山岩層 φ5~10mmの鉄石粒/1/1/2 黑褐色火山岩層が点在する。

II-2層 10Y86/6 明黄色土・火山灰層。

II-3層 7. 5/15/5 黄褐色土・火山岩層。

II-4層 10Y86/6 黄褐色土質粘土層。φ2~3mmの鉄石粒が混在する。

II-5層 10Y84/6 非鐵石質粘土層 (鉄石なし) (S-6m) なじ上部は厚さ約1~1. 10m程度で7. 5/18/4に沿う・鶴見層にになっている。

r → (サンプルアソシエイト) [サンプル②]

II-7層 7. 5/16/6 黏土化した鶴見層底質層 (ヨーロッパ) II-8層に比べ・色調黄褐色。

II-8層 10Y84/6 黏土化した鶴見層底質層。

II-9層 10Y86/6 黄褐色土・火山灰層 (ヨーロッパ) II-9層下部は上部からの付生で離れた部分。

II-10層 10Y86/6 黄褐色土・火山灰層 (ヨーロッパ) [サンプルアソシエイト]

II-11層 10Y86/6 明黄色土・火山層。

II-12層 10Y86/6 明黄色土質粘土層。

II-13層 7. 5/16/6 に比べ・褐色ない。7. 5/16/6 黄褐色土層。

II-14層 10Y86/6 三に10Y87/7(10Y86/6)より褐色厚さ2~4mmで長さがない。1/20mmの鉄石粒を含む。

II-15層 10Y84/4 黄褐色土。粘性に乏しい。

II-16層 10Y85/4 黄褐色土・火山灰層 (ヨーロッパ) 黏土化した鉄石・鉄・粘土を含む。

II-17層 10Y85/4 黄褐色土・火山灰層 (ヨーロッパ) 10Y86/6より褐色厚さ2~4mmの鉄石・風化花崗岩 (ヨーロッパ) が散在する。

II-18層 10Y86/6 黄褐色土・火山灰層 (ヨーロッパ) 10Y86/6より褐色厚さ2~4mmの鉄石・風化花崗岩 (ヨーロッパ) が散在する。

II-19層 10Y86/7 黑褐色土。

II-20層 10Y87/2 黑褐色土。粘性に乏しい。火成岩層の上に薄く水平堆積する。[サンプル③]

III-1層 10Y86/7 黑褐色土。

III-2層 10Y87/2 黑褐色土。粘性に乏しい。

III-3層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-4層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-5層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-6層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-7層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-8層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-9層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-10層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-11層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-12層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-13層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-14層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-15層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-16層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-17層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-18層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-19層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-20層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-21層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-22層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-23層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-24層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-25層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-26層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-27層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-28層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-29層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-30層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-31層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-32層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-33層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-34層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-35層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-36層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-37層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-38層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-39層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-40層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-41層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-42層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-43層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-44層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-45層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-46層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-47層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-48層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-49層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-50層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-51層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-52層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-53層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-54層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-55層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-56層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-57層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-58層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-59層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-60層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-61層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-62層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-63層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-64層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-65層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-66層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-67層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-68層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-69層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-70層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-71層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-72層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-73層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-74層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-75層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-76層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-77層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-78層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-79層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-80層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-81層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-82層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-83層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-84層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-85層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-86層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-87層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-88層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-89層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-90層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-91層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-92層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-93層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-94層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-95層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-96層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-97層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-98層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-99層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-100層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-101層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-102層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-103層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-104層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-105層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-106層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-107層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-108層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-109層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-110層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-111層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-112層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-113層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-114層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-115層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-116層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-117層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-118層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-119層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-120層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-121層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-122層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-123層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-124層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-125層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-126層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-127層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-128層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-129層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-130層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-131層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-132層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-133層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-134層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-135層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-136層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-137層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-138層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-139層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-140層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-141層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-142層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-143層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-144層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-145層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-146層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-147層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-148層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-149層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-150層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-151層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-152層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-153層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-154層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-155層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-156層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-157層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-158層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-159層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-160層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-161層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-162層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-163層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-164層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-165層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-166層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-167層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-168層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-169層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-170層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-171層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-172層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-173層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-174層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-175層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-176層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-177層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-178層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-179層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-180層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-181層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-182層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-183層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-184層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-185層 10Y87/3 黑褐色土層。

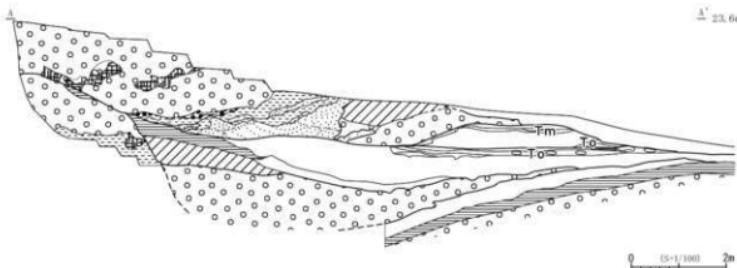
III-186層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-187層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-188層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-189層 10Y87/3 黑褐色土層。

III-190層 10



黒色土類(吉小牧火山灰狭在)	褐色土	粘土(三沢層)
黒色土類(十和田 a 火山灰狭在)	ローム	砂(三沢層)
黒色土類	レッドバミス	
にぶい黄褐色土	洞爺火山灰	

図3-2 駒沢(5)遺跡 D区1 トレンチ南壁の土・地層断面概略図

第2節 歴史的環境

姉沼川右岸から米軍三沢基地にかけての中位段丘面には、駒沢(5)・(6)遺跡の他多くの遺跡が集中する。図4は青森県遺跡地図（青森県教委,2009）を基に作団した調査区周辺の登録遺跡範囲である。以下、駒沢(5)・(6)遺跡の周辺遺跡について、駒沢・平畠・天狗森地区の既調査遺跡を中心に概要を記述していく。図4中の登録番号は、文中「遺跡名〔登録番号〕」で記す。

縄文時代早期…駒沢(5)・(6)遺跡 [061・062] から北東約1.5kmに位置する小山田(2)遺跡 [117] では縄文時代早期の日計式から早稲田5類までの土器が出土し、早期中葉の吹切沢式に類似した個体土器が伴う竪穴住居跡が3棟検出され、平畠(3)遺跡 [003] では早期末葉の早稲田5類に伴う竪穴住居が検出されている。土器のみでは平畠(5)遺跡 [033] で早期中葉の物見台式と早稲田5類の土器が、柿沼南岸の猫又(1)遺跡 [024] でもムシリI式と早稲田5類の土器が出土している。この他、天狗森貝塚 [014] でも早期の土器が出土している。

縄文時代前期…小山田(1)遺跡 [029] では円筒下層式期の竪穴住居が見つかっている。土器は小山田(2)遺跡 [117] で早稲田6類、円筒下層b式が、平畠(3)遺跡 [003] で早稲田6類と円筒下層d式が、平畠(5)遺跡 [033]・猫又(1)遺跡 [024] で早稲田6類が出土している。

縄文時代中期…猫又(1)遺跡 [024] では中期後葉～末葉を含む竪穴住居58棟、フ拉斯コ形を含む土坑等が確認され、当該期の一大集落になると思われる。同時期の土器では平畠(3)遺跡 [003]・平畠(5)遺跡 [033]・天狗森(2)遺跡 [039] で少量報告されている。円筒上層式の出土は少なく、猫又(1)の他、平畠(3)遺跡 [003] と小山田(2)遺跡 [117] で円筒上層a～d式が少量出土している。

縄文時代後期～晩期…猫又(1)遺跡 [024] は後期初頭から十腰内I式の集落でもある。同時期の遺跡として小山田(2)遺跡 [117]、平畠(3)遺跡 [003]、平畠(5)遺跡 [033] が挙げられる。

弥生時代・続縄文時代…天狗森貝塚 [014] では弥生時代中期の竪穴住居跡2棟、小山田(2)遺跡 [117]・天狗森(2)遺跡 [039]・天狗森(3)遺跡 [118] でも弥生前期の時期幅で土器が出土している。続縄文時代では猫又(1)遺跡 [024] において後北C2・d式の出土が知られている。

奈良時代…竪穴住居跡が平畠(1)遺跡 [001]、平畠(3)遺跡 [003]、猫又(1)遺跡 [024]、天狗森貝塚 [014] で検出されている。

平安時代…平畠(3)遺跡 [003]・平畠(5)遺跡 [033] ではマウンドを伴う円形周溝が、天狗森(2)遺跡では竪穴住居跡が検出されている。平畠(1)遺跡 [001] では竪穴住居跡と壕跡が確認され、所謂防御性集落であった可能性が指摘されている。平畠(5)遺跡 [033] では擦文土器も出土している。

(秦)

縮尺=1/25,000

遺跡番号	遺跡名	時代	種別
001	平畠(1)遺跡	縄文(早~後)、奈良、平安	集落跡
002	平畠(2)遺跡	縄文(早~後)、平安	集落跡
003	平畠(3)遺跡	縄文(早~後)、奈良、平安	集落跡、墳墓
004	平畠(4)遺跡	縄文(早~後)	散布地
014	天狗森貝塚	縄文(早~晩)、弥生(前)、貝塚	奈良、平安
021	駒沢(1)遺跡	縄文(前・中)、奈良、平安	散布地
022	駒沢(2)遺跡	縄文(前・中)	散布地
023	駒沢(3)遺跡	縄文(前・中)	散布地
024	駒又(1)遺跡	縄文(早・中・後)、平安	散布地
025	駒又(2)遺跡	縄文(早~晩)、張生(後)、平安	集落跡
029	小山田(1)遺跡	縄文(早~後)、弥生、奈良	集落跡
032	平畠(9)遺跡	縄文(中・後)	散布地
033	平畠(5)遺跡	縄文(早~後)、弥生、奈良、平安	集落跡、貝塚、墳墓
034	平畠(6)遺跡	縄文(後)、奈良、平安	散布地
038	天狗森(1)遺跡	縄文(早~後)、奈良	集落跡
039	天狗森(2)遺跡	縄文(中・後)、弥生	散布地
047	古間木(1)遺跡	縄文(早)	散布地
048	古間木(2)遺跡	縄文(前)	散布地
049	古間木(3)遺跡	縄文(前・中)、奈良、平安	散布地
050	古間木(4)遺跡	縄文(後)	散布地
051	古間木(5)遺跡	弥生(後)	散布地
052	古間木(6)遺跡	縄文、奈良、平安	散布地
053	古間木(7)遺跡	縄文	散布地
054	古間木(8)遺跡	奈良、平安	散布地
055	古間木(9)遺跡	奈良、平安	散布地
056	古間木(10)遺跡	縄文(後)	散布地
057	上久保(1)遺跡	縄文(前)、弥生、奈良、平安	散布地
058	上久保(2)遺跡	縄文	散布地
059	花園(1)遺跡	縄文(早・前・中)	散布地
060	駒沢(4)遺跡	縄文(前・中)、奈良、平安	散布地
063	駒沢(7)遺跡	縄文、縄文(前・中)	散布地
064	平畠(7)遺跡	縄文(前)	散布地
065	平畠(8)遺跡	縄文(前)	散布地
066	駒又(3)遺跡	縄文(前・中)	散布地
067	駒又(4)遺跡	縄文(前・中)、奈良、平安	集落跡
073	越森(2)遺跡	縄文	散布地
108	駒沢(8)遺跡	縄文(前)	散布地
111	母衣平出牛(1)遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後)	散布地
112	母衣平出牛(2)遺跡	縄文(前・中・後)、弥生(後)	散布地、集落跡
114	母衣平出牛(4)遺跡	縄文(前・後)、平安	散布地、集落跡
116	越森(3)遺跡	縄文	散布地
117	小山田(2)遺跡	縄文(早~後)、弥生(中)、平安	集落跡
118	天狗森(3)遺跡	縄文(早・中)、平安	散布地、集落跡
124	天狗森(4)遺跡	縄文(早・後)、平安	散布地、集落跡、貝塚
125	天狗森(5)遺跡	縄文(早・後)、弥生	散布地、集落跡
127	花園(2)遺跡	縄文(早・前)	散布地

表1 周辺遺跡リスト

図4 遺跡位置図



第3章 駒沢(5)遺跡の検出遺構と出土遺物

第1節 調査概要

1 調査区と調査の概要

本遺跡の当該事業に係るこれまでの発掘調査は、県埋蔵文化財調査センターと三沢市教育委員会の2つの機関で実施している。今年度報告する調査区は2地区で、平成23年度調査からの通し番号をつけて、C区・D区と呼称した（図1・5・6）。

C区は平成22年度三沢市教育委員会と平成23年度県埋蔵文化財調査センター調査区の間に位置する。これまでに実施された周囲の調査では、縄文時代の溝状土坑や縄文時代または平安時代の土坑などが検出され、縄文時代と弥生時代の遺物が出土している。今回の調査区の現況は畑と現道であり、畑部分は一部トレンチャーによる搅乱を受けていた。調査の結果、縄文時代の溝状土坑4基、時期不明の土坑8基、用途不明遺構2基を検出した。遺物は、縄文土器、石器が出土しているが、遺構に伴う遺物ではなく、全て遺構外からの出土である。

D区は平成22年度三沢市教育委員会調査区の西側、本事業調査対象区の西端に位置する。現況地形は丘陵端部の丘陵上および斜面部で、調査前には丘陵上部、斜面の中位および下位と3面の平坦面が確認できることから、それぞれ、上段、中段、下段と呼称した。縄文時代の溝状土坑1基と平安時代の用途不明遺構2基を検出したほか、中段、下段の平坦面を形成した大規模な地滑り痕・地割れ痕を確認した。C区同様、遺構に伴う出土遺物ではなく、遺構外から縄文土器、石器、土師器が出土している。

2 調査区内の地滑り痕・地割れ痕について

C区の西端とD区の広域で、地滑り痕および地割れ痕を確認した。C区ではIV T-81・82グリッドの小範囲で、地割れ痕跡を確認した。西側につながる平成22年度三沢市教委調査区では、調査区北側の急崖を形成する要因となったと考えられる地割れの痕跡が東西方向に広く確認されており、今回検出した地割れ痕跡はこの延長部となる。なお、三沢市教委調査では、地割れ痕の確認面から縄文時代中期初めの円筒上層a式土器が出土していることから、形成時期はこれ以前と考えられているが、今回の調査では年代を決定するための資料を得ることはできなかった。

D区は、丘陵縁辺とそこから北西側に向かって下る急斜面地形となっている。現況では、標高30～31mの丘陵縁辺部が平坦面（上段）となっており、その北西側へ下る急斜面の下には標高23～24mの平坦面（中段）がある。さらに中段平坦面から北西側に向かって斜面が続き、その下に標高20mの平坦面（下段）が続く段状の地形を呈している。調査区より西側はさらに斜面地が続き、約200m先で姉沼川沿いに発達した沖積地に面している。

上段にあたる丘陵縁辺部では、ほぼ全域にわたって複数の地割れ痕を確認した。上記した調査区北側の急崖形成に伴う地割れ痕跡と考えられる。さらに上段から続く急斜面下の中段平坦面52～58グリッドでは、黒色土上位でロームの堆積を確認した。調査区南壁および北壁にトレンチ（1・4トレンチ）を設定して精査を行ったところ、白頭山火山灰降下以降に起こった大規模な地滑りにより現況

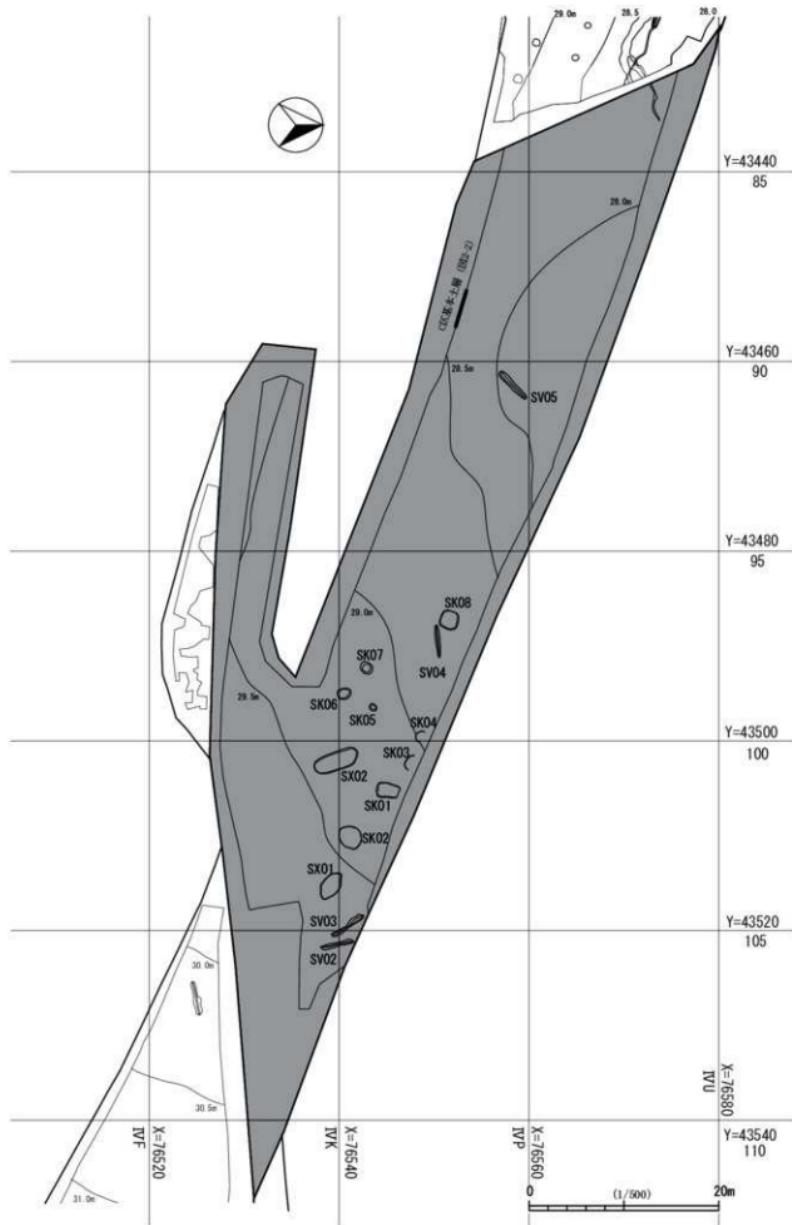


図5 駒沢(5)遺跡 C区遺構配置図

駒沢(5)遺跡II・駒沢(6)遺跡II

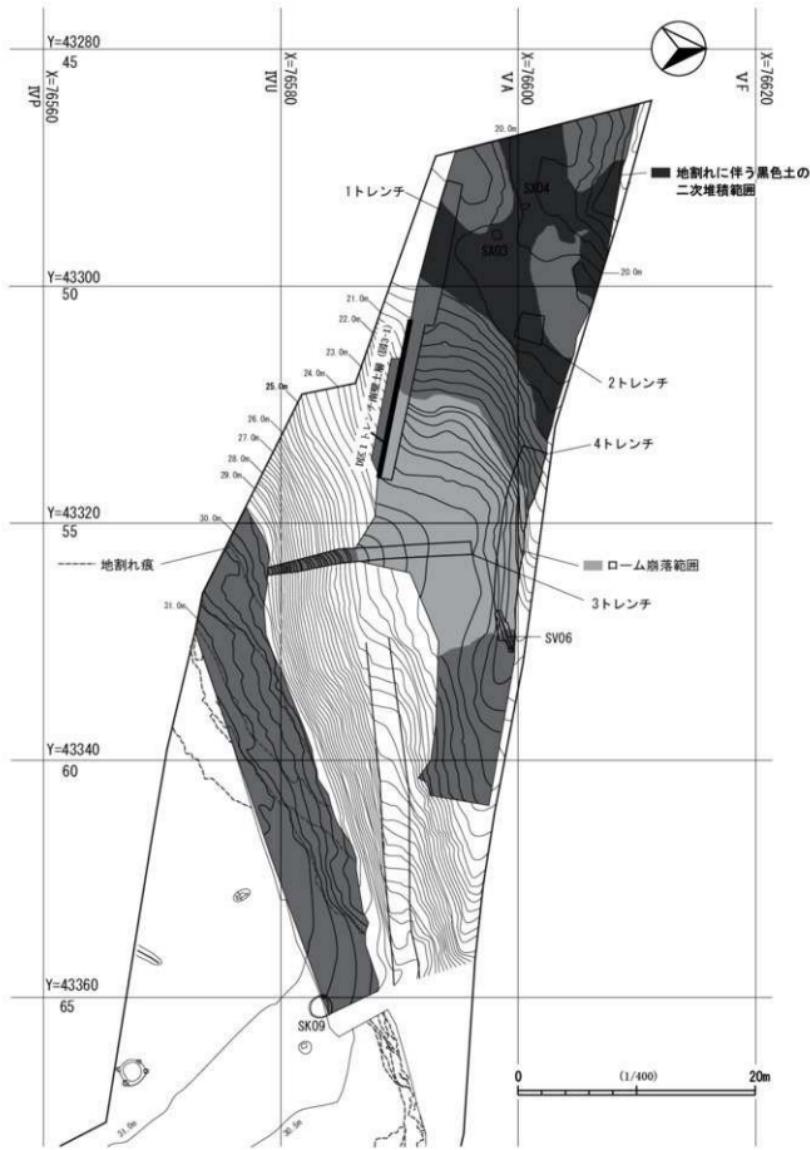


図6 駒沢(5)遺跡 D区遺構配置図

の中段平坦面が形成されていることを確認した。また、白頭山火山灰堆積以前の地層においても、黒色土上面にロームの堆積が確認できる層があり、それ以前にも大規模な地滑りがこの場所で起こったことが確認できた。なお、この地滑りについての詳細は、第2章第1節で報告されている。

下段平坦面では、広範囲にわたって複数の地割れ痕跡を確認した。地割れ痕跡には二次的に黒色土が堆積しており、その黒色土上面で平安時代の用途不明遺構 SX03 と SX04 を検出したことから、平安時代以前に形成された地割れ痕跡と考えられる。

調査対象区周辺の地形測量図をみると、等高線が大きく乱れた様相を呈していることが明らかで、本調査区を中心とした周辺で、縄文時代以降、規模は大小はあるものの地滑りや地割れが幾度と発生し、現況の地形を形成していったものと考えることができる。

(鈴木)

第2節 検出遺構

1 土坑

C 区で 8 基 (SK01 ~ SK08)、D 区で 1 基 (SK09) 検出した。C 区では、標高 28.5 ~ 30.0m の調査区東半に散在し、標高がやや低い西半では確認していない。いずれも V 層または VI 層で遺構プランを確認しているため、本来の掘り込み層位や規模は不明である。また、遺構に伴う出土遺物はなく、遺構の構築年代は不明である。

D 区で検出した 1 基 (SK09) は、三沢市教育委員会調査で確認された第36号土坑の延長部である。今回の調査では時期決定になるような遺物は出土しなかったが、以前の調査成果から、縄文時代の遺構と考えられる。

第1号土坑 [SK01] (図7)

【位置と確認】 C 区、IV L-101 グリッドに位置する。V 層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸残存 230 cm、短軸 162 cm の楕円形を呈する。深さは 20 cm を測る。

【堆積土】 4 層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁はやや開いて立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】 なし。

【小結】 構築時期は不明である。

第2号土坑 [SK02] (図7)

【位置と確認】 C 区、IV K-102 グリッドに位置する。V 層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸 267 cm、短軸 226 cm の楕円形を呈する。深さは 14 cm を測る。

【堆積土】 3 層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁はやや開いて立ち上がり、底面は凹凸がみられる。

【出土遺物】 なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第3号土坑 [SK03] (図7)

〔位置と確認〕C区、IV L・IV M-100 グリッドに位置する。V層上面で検出した。遺構の北部は調査区外に存在する。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 161 cm、短軸残存 64 cmである。深さは 8 cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とした單一土層で、自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕底面はほぼ平坦である。底面近くのみを検出しており、壁の立ち上がりは不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第4号土坑 [SK04] (図7)

〔位置と確認〕C区、IV M-99・100 グリッドに位置する。V層上面で検出した。遺構の北部は調査区外に存在する。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 124 cm、短軸残存 73 cmである。深さは 9 cmを測る。

〔堆積土〕褐色土と黒色土が混合した單一土層で、自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕底面はほぼ平坦である。底面近くのみを検出しており、壁の立ち上がりは不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第5号土坑 [SK05] (図7)

〔位置と確認〕C区、IV K-99 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 79 cm、短軸残存 67 cmの楕円形を呈する。深さは 11 cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色土を主体とした單一土層で、自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕壁は開いて立ち上がり、底面は凹凸がみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第6号土坑 [SK06] (図7)

〔位置と確認〕C区、IV J・IV K-98 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 146 cm、短軸残存 117 cmの楕円形を呈する。深さは 17 cmを測る。

〔堆積土〕3層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕壁は大きく開いて立ち上がり、底面は凹凸がみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第7号土坑〔SK07〕(図7)

〔位置と確認〕C区、IV K-97・98グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸135cm、短軸118cmの楕円形を呈する。深さは39cmを測る。

〔堆積土〕3層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕壁は開いて立ち上がり、底面は凹凸がみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第8号土坑〔SK08〕(図7)

〔位置と確認〕C区、IV M・IV N-96・97グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸192cm、短軸190cmの隅丸方形を呈する。深さは10cmを測る。

〔堆積土〕黒色土の單一土層である。

〔壁面・底面〕壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕構築時期は不明である。

第9号土坑〔SK09〕(図7)

〔位置と確認〕D区、IV U・IV V-64・65グリッドに位置する。V層上面で検出した。遺構の南部は平成22年度三沢市教委の調査区内で検出・精査している。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕全形で長軸198cm、短軸残存197cmのはば円形を呈する。深さは16cmを測る。

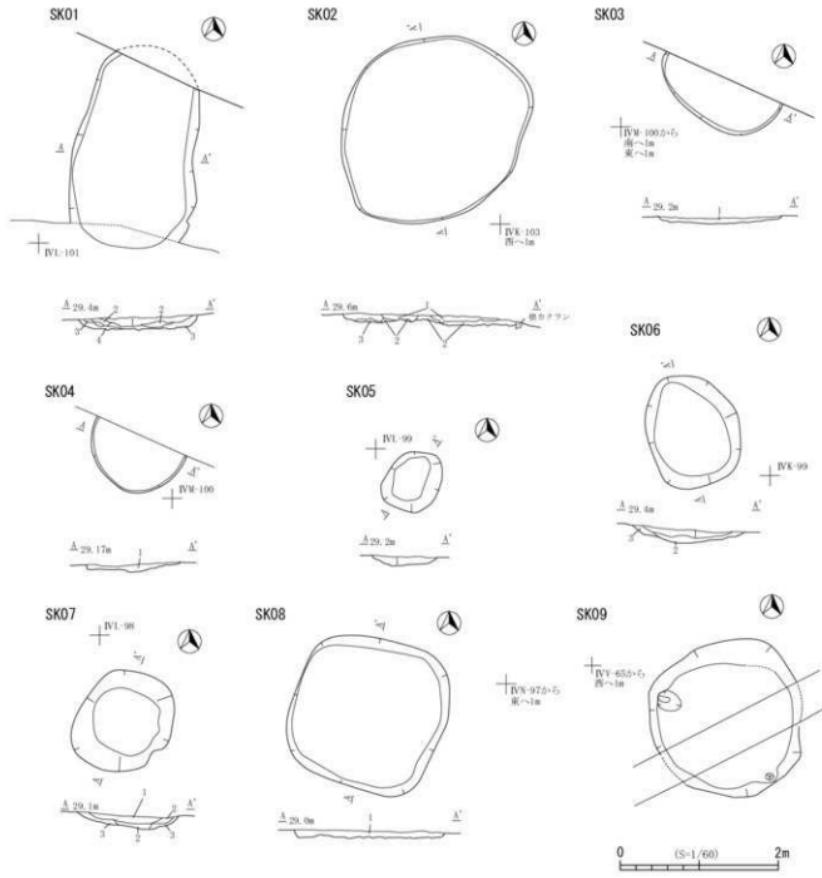
〔堆積土〕上層で黒色土、下層で褐色土を主体とする土層を確認したが、今回の調査では断面図は作成していない。

〔壁面・底面〕壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕平成22年度調査成果から、縄文時代の遺構と考えられる。

駒沢(5)遺跡Ⅱ・駒沢(6)遺跡Ⅱ



SK01
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR2/1黒色土10%、ローム粒($\phi 1\sim5mm$)2%。
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/4褐色土3%、ローム粒($\phi 1\sim5mm$)1%。
3層 10YR4/4 黄褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土(50%: 50%)

10YR2/1黒色土10%、ローム粒($\phi 1\sim2mm$)、浮石1%未満、炭化物1%。

4層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/3黒褐色土ブロック30%、浮石1%未満、炭化物1%。

SK02
1層 10YR2/2 黒色土と10YR2/3黒褐色土の混合土(80%: 20%) ローム粒($\phi 1\sim5mm$)2%。

2層 10YR2/3 黑褐色土と10YR4/4褐色土(10%: 30%) ローム粒($\phi 2\sim10mm$)7%、炭化物1%未満。

3層 10YR4/3 二云鉄土 ローム粒($\phi 1\sim5mm$)3%。

SK03
1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6褐色土(70%: 30%) ローム粒($\phi 1\sim5mm$)、炭化物1%未満。

SK04
1層 10YR4/4 褐色土と10YR2/1黒色土との混合土(50%: 50%) 10YR5/6黄褐色土1%、10YR3/3黒褐色土1%、ローム粒($\phi 1\sim10mm$)、浮石1%未満。

SK05
1層 10YR2/4 嫌褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土(80%: 20%) ロームブロック($\phi 5\sim10mm$)2%、ローム粒($\phi 1\sim10mm$)10%、浮石1%未満。

SK06
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/2 黒褐色土 炭化物1%以下、浮石1%以下。
2層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物1%以下、浮石1%以下。
3層 10YR3/3 黑褐色土 炭化物1%以下。

SK07
1層 10YR3/3 嫌褐色土 炭化物3%、ローム粒1%以下。
2層 10YR4/3 二云鉄土 炭化物2%、ローム粒1%、浮石1%。
3層 10YR5/4 二云鉄土 炭化物3%、浮石2%。

SK08
1層 10YR2/1 黑褐色土 ローム粒($\phi 1\sim6mm$)2%。

図7 駒沢(5)遺跡 土坑(SK)

2 溝状土坑

C 区で 4 基 (SV02 ~ SV05)、D 区で 1 基 (SV06) 検出した。C 区では調査区内に散在して検出しており、まとまりはみられない。

D 区で検出した SV06 は、地滑りにより形成された標高約 22m の調査区中段で検出した。上面には厚く崩落ローム土が堆積しており、さらに、SV06 を検出したローム面も崩落ロームと考えられることから、本来の位置をとどめていないと考えられる。

いずれの遺構からも遺物は出土していない。

第 2 号溝状土坑 [SV02] (図 8)

【位置と確認】 C 区、IV J・IV K-105 グリッドに位置する。V 層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸 359 cm、短軸 52 cm の長楕円形を呈する。深さは 71 cm を測る。上幅は崩落により不規則である。

【堆積土】 11 層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁面は上方に向かって開く形となり、短軸方向の断面形は U 字状で、中位よりやや下に最大幅がある。底面は北側に向かってやや傾斜している。

【出土遺物】 なし。

【小結】 繩文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第 3 号溝状土坑 [SV03] (図 8)

【位置と確認】 C 区、IV J・IV K-104・105 グリッドに位置する。V 層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸 399 cm、短軸 65 cm の長楕円形を呈する。深さは 100 cm を測る。上幅は崩落により不規則である。

【堆積土】 5 層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁面は上方に向かってやや開く形となり、短軸方向の断面形は U 字状である。底面は長軸端部から中央部に向かって傾斜している。

【出土遺物】 なし。

【小結】 繩文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第 4 号溝状土坑 [SV04] (図 8)

【位置と確認】 C 区、IV M-96・97 グリッドに位置する。V 層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸 350 cm、短軸 49 cm の長楕円形を呈する。深さは 82 cm を測る。幅は東側がやや狭い。

【堆積土】 9 層に分層した。6・8 層は崩落土で、その他もほぼ自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁面は上方に向かってやや開く形となり、短軸方向の断面形は V 字状である。底面は

ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第5号溝状土坑〔SV05〕(図8)

〔位置と確認〕C区、IV O-90 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 397 cm、短軸 72 cm の長楕円形を呈する。深さは 80 cm を測る。幅はほぼ一定である。

〔堆積土〕11 層に分層した。4・8・9 層は崩落土で、その他もほぼ自然堆積の様相を呈する。

〔壁面・底面〕壁面は上方に向かって開く形となり、短軸方向の断面形は V 字状である。底面は北東側に向かってやや傾斜している。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第6号溝状土坑〔SV06〕(図8)

〔位置と確認〕D区中段、IV Y-56・57 グリッドに位置する。斜面上段より崩落したと考えられる堆積土中で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 350 cm、短軸 72 cm の長楕円形を呈する。深さは 116 cm を測る。幅はほぼ一定である。

〔堆積土〕堆積状況は確認していない。

〔壁面・底面〕壁面は上方に向かって開く形となるが、長軸方向東側端部はやや抉り込んでいる。短軸方向の断面形は Y 字状である。底面はやや凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

3 用途不明遺構

C区で検出した壁の立ち上がりがやや不明瞭で不整形な遺構(SX01)と、長軸が4mを超える規模が大きな遺構(SX02)、およびD区の調査区下段で検出した焼土と炭化物を伴う遺構(SX03・SX04)を用途不明遺構とした。なお、SX03とSX04から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、平安時代に相当する年代結果が得られている(第5章第1節)。

第1号用途不明遺構〔SX01〕(図9)

〔位置と確認〕C区、IV J・IV K-103・104 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕長軸 269 cm、短軸 188 cm の不整形を呈する。深さは 14 cm を測る。

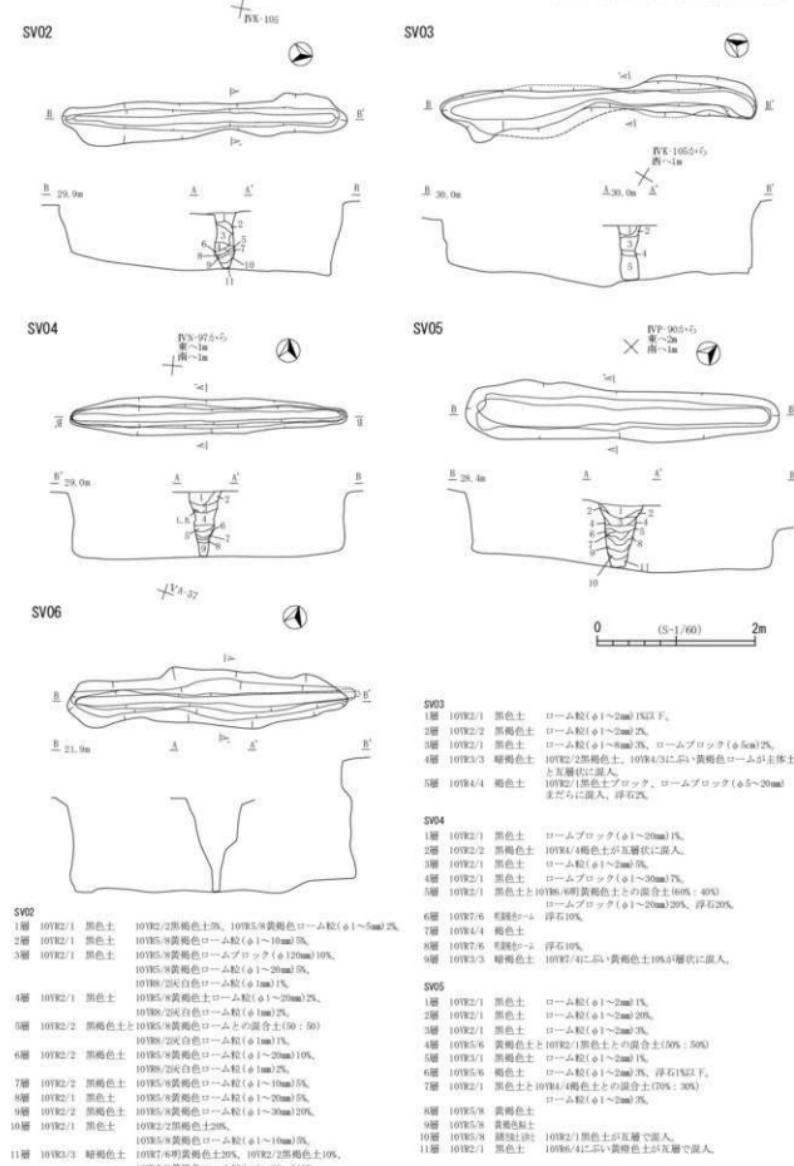


図8 駒沢(5)遺跡 溝状土坑(SV)

【堆積土】3層に分層したが、1層と2層はそれぞれ基本土層のIV層とV層に類似する。

【壁面・底面】全体的に浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】構築時期は不明である。堆積土や壁面の状況から、自然の落ち込み地形の可能性もある。

第2号用途不明遺構【SX02】(図9)

【位置と確認】C区、IV J・IV K-100グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】長軸487cm、短軸192cmの長楕円形を呈する。深さは30cmを測る。

【堆積土】8層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】壁は大きく開いて立ち上がり、底面は凹凸がみられる。

【出土遺物】なし。

【小結】構築時期は不明である。

第3号用途不明遺構【SX03】(図9)

【位置と確認】D区下段、IV Y-48グリッドに位置する。地割れに伴う二次的な黒色堆積土層の上面で、焼土と炭化物を含む褐色土のプランとして検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】長軸80cm、短軸72cmの楕円形を呈する。堆積土の厚さは28cmを測る。

【堆積土】3層に分層した。1層は焼土と炭化物を含むSX03の堆積土である。a層およびb層は地割れに伴う不規則な堆積土と考えられる。

【出土遺物】なし。

【小結】放射性炭素年代測定の結果から、平安時代の遺構と考えられる。

第4号用途不明遺構【SX04】(図9)

【位置と確認】D区下段、VA-48グリッドに位置する。地割れに伴う二次的な黒色堆積土層の上面で、焼土範囲として検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】長軸78cm、短軸39cmの楕円形を呈する。焼土の厚さは10cmを測る。

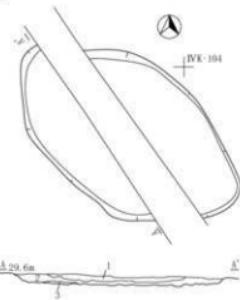
【堆積土】炭化物が混入した褐色焼土の单一土層である。

【出土遺物】なし。

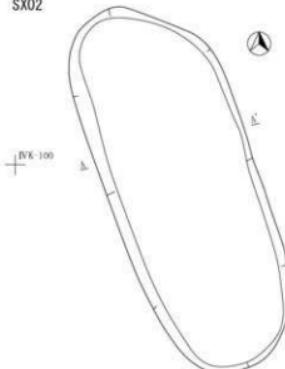
【小結】放射性炭素年代測定の結果から、平安時代の遺構と考えられる。

(鈴木)

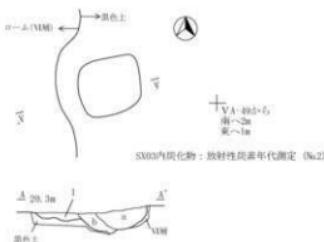
SX01



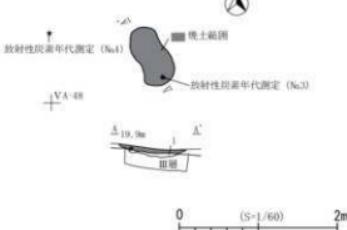
SX02



SX03



SX04



SX01

- 1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR1.7/1黒色土との混合土(70%:30%)
ローム粒(φ2~10mm)2%, 浮石1%.
- 2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土(70%:25%)
10YR5/6黄褐色土3%, ローム粒(φ2~6mm)7%, 浮石1%.
- 3層 10YR4/4 褐色土
ローム粒(φ2~8mm)2%, 浮石1%.

SX02

- 1層 10YR3/2 黑褐色土
2層 10YR3/2 黑褐色土
3層 10YR5/1 黑褐色土
4層 10YR5/7 黑褐色土
5層 10YR2/2 黑褐色土
6層 10YR4/3 こく-鉄粒
7層 10YR6/6 黒褐色土
8層 10YR4/4 褐色土
浮石1%.

SX03

- 1層 10YR2/3 黒色土と10YR4/4褐色土との混合土(50%:50%) 焼土(φ1~3cm)10%,
炭化物(φ10~20mm)10%, ローム粒(φ1~2mm)5%.
- a層 10YR4/4 焼土土
10YR2/2黑褐色土40%, ローム粒(φ1~3mm)5%.
- b層 10YR2/ 黒色土
10YR4/4褐色土10%, ローム粒(φ1~2mm)5%.

SX04

- 1層 10YR4/4 褐色土 炭化物混入。

図9 駒沢(5)遺跡 用途不明遺構 (SX)

第3節 出土遺物

D区を中心に、段ボール箱2箱分の土器・石器が出土した。遺構に伴う遺物は無く、全て遺構外からの出土である。

1 土器 (図10・図12-1~3)

縄文時代早期から中期前葉までの破片が141点、図示しなかったが平安時代の土師壺の破片が13点出土した。主体は早期～前期前葉であるが、小片が多く器形全体を把握できる資料に欠ける。以下、縄文土器について各群別に分類し、記述する。

I群 縄文時代早期前葉～中葉に位置づけされる貝殻文系土器

a類 (図10-1・図11-1~7) : 爪形刺突が施される尖底土器

IV X-51のVI-1層の落ち込み内から主に出土した。成形は粘土帶を内傾接合したもので、主に赤褐色～黄褐色、内面及び外面上位で暗灰色に発色して堅く焼き締まる。石英・長石等の砂粒混入が顕著な一群でもある。図11-1と2は同一個体の口縁部破片で、外面に①縦線の貝殻条痕、②横位直列の爪形文で二段に区画、③区画内を並列の爪形文を充填、④爪形施文面を横ナデ、の工程順で施文・器面調整が施されている。爪形刺突に粘土のめくれ返りは伴っていない。内面は器壁全体が荒れており、調整痕が残存していない。図11-3～6は尖底深鉢の下半部にあたる同一個体破片で、図11-1と2の下半部である可能性がある。尖底端部が出土しなかったが、図10-1から砲弾形、図11-5から胴部上位でやや窄まる器形であったと推測される。外面に密に施された調整はミガキと捉えざるを得ないもので、単位幅5mm前後、底部から縦方向→右下がりの斜方向→横位と角度を漸移させ平滑に仕上げられている。図11-3はミガキ以前の条痕が残存している破片である。内面の器壁は残存不良が多いが、図10-1・図11-3では粗いヘラナデと思われる痕跡が認められる。これらは中野平遺跡第Ⅱ群土器（青森県教委 1991）、千歳(13)遺跡I群1類土器（青森県教委 1976）に相当し、白浜・小舟渡平式（江坂 1952・1956）に位置付けられる。

b類 (図11-8) : 浅く幅広の沈線と乳房形底部を持つ土器

D区のV A-48のVI-1層から同一個体と考えられる破片4点が出土した。胎土には径2～4mmの砂粒が目立つが纖維は認められない。図示した1点は丸底部分である。内傾接合によって形成されており、やや軟質の焼成で黄灰色に発色する。器面は粗雑な仕上がりで、その上から幅5mm前後のヘラ状工具によって浅く雜に施された沈線は、ヘラナデとの区別を曖昧としている。類例が小山田(2)遺跡の堅穴住居出土遺物（三沢市教委 1999）にある。

II群 縄文時代前期初頭～前葉に位置付けられる縄文が施された纖維混入土器

a類 (図11-9～14) : 纖維混入が少なく、赤褐色で良好な焼成かつ外面文様に単節斜縄文のみ認められるもの。

主にD区のIV W～V A-47～51、VI-1層から出土している。割れ口で観察できる接合痕は外傾

し、径0.5～2mmの砂粒を含むが、総じて均質・緻密な胎土で良好な焼成である。内面には砂粒の移動を伴うナデ(12)、密な指頭圧痕(11)、ヘラナデ(9・10)、平滑な継ミガキ(14)が認められる。9・10は口端形状が角頭状で、口端面取り→ナデの成形順である。本類は早稲田6類(佐藤他1959)に多く存在するとされる組繩縄文(高橋1992)の回転施文が認められる。和野前山遺跡8群E類(青森県教委1984)、表館(1)遺跡第Ⅷ群土器(青森県教委1990)に相当し、早稲田6類に位置付けられるものと考えられる。

b類(図11-15～20)：織維混入が多く、暗灰色でやや軟質の焼成のもの

D区IVV～VA-47～52のIV～VI-1層で散見された。織維混入が目立つが胎土自体は粗ではない。口縁は外反気味(17・18)・や内傾(15・19)するものが含まれる。口端は角頭状に近いがIIa類より丸みを帯び、内面はナデによって平滑に整えられている。本類も組繩縄文の施文が認められ、IIa類と同様の位置付けが成されるものと考えられる。

c類(図10-2)：赤褐色で砂粒が多く、単軸絡条体第3類の回転施文が認められるもの

C区から1点のみの出土である。内面に継方向の指ナデ、外面には単軸絡条体第3類又は自繩自結節(茅野2002)の斜位回転が施される。

III群(図10-3・図11-21～28)：縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられる土器

21・22は円筒下層d式の剥落した装飾貼付、23～28は円筒上層a式に比定できる。

2 石器(図10-4・図12-1～9)

剥片石器はD区のVI-1層から石匙(図12-2)、石鏃(図12-1)等の器種が各一点、二次加工剥片を含む剥片が少量出土している。砾石器はC・D区から出土し、図12-5は磨製石斧、図12-8は石皿縁辺部、図10-4・図12-7・9は磨石である。図12-6は柱状節理を持つ棒状角砾の角を打ち欠いており、石棒を意図したものかもしれない。

(秦)

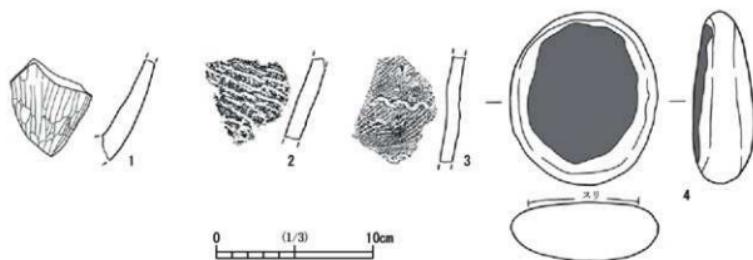


図10 駒沢(5)遺跡 C区出土遺物

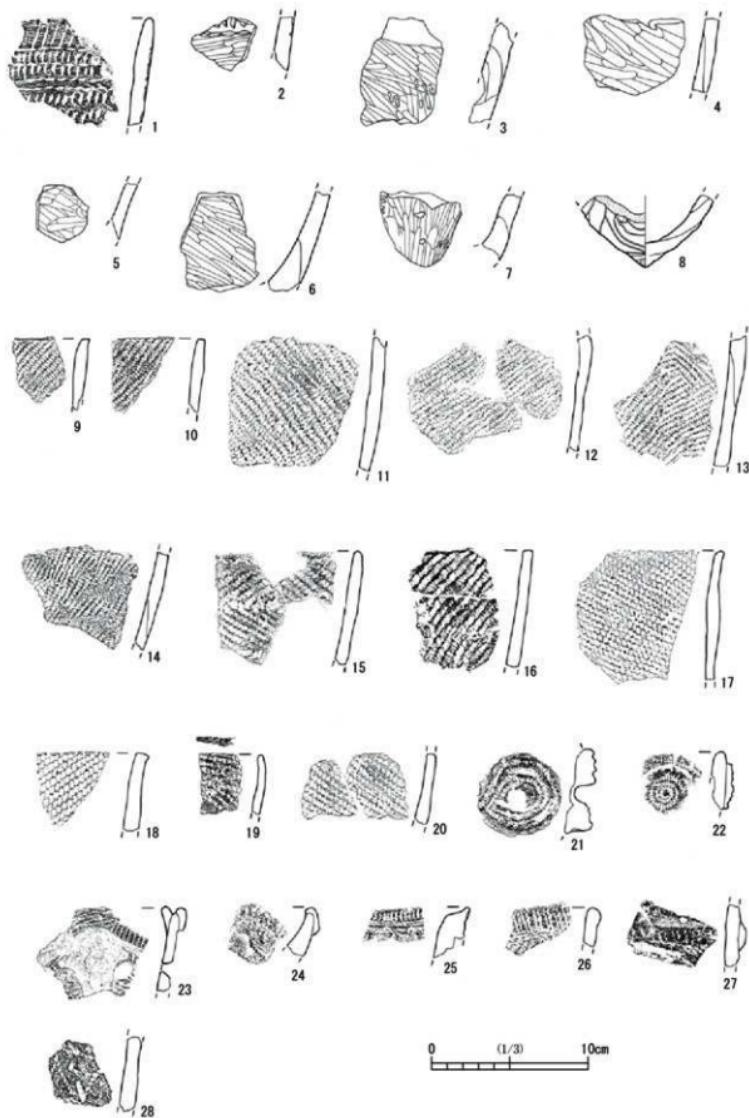


図 11 駒沢(5)遺跡 D 区出土土器

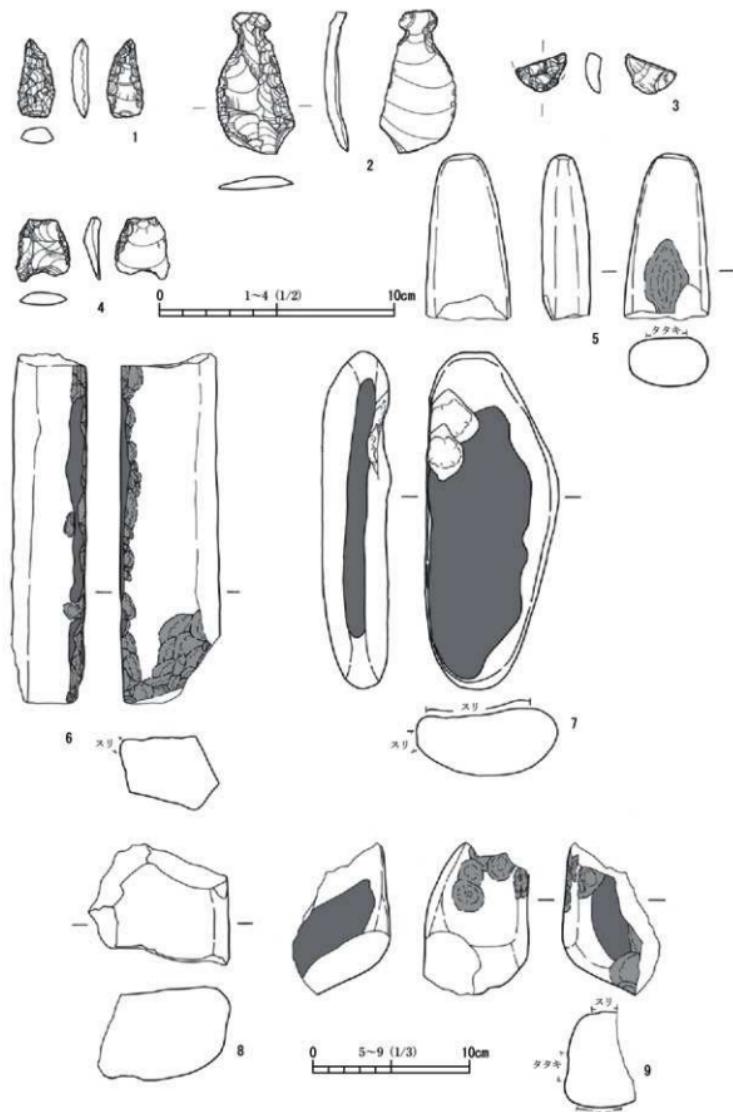


図 12 駒沢(5)遺跡 D 区出土石器

第4章 駒沢(6)遺跡の検出遺構と出土遺物

第1節 調査概要

本遺跡の当該事業に係るこれまでの発掘調査は、駒沢(5)遺跡と同様、県埋蔵文化財調査センターと三沢市教育委員会の2つの機関で実施している。今年度報告する調査区は2地区で、地区名は平成23年度調査からの通し番号をつけて、F区とG区と呼称した(図1・13)。

F区は平成22年度に三沢市教育委員会が調査を実施した調査区のはば中央部に位置する。周囲の調査では、縄文時代の溝状土坑が多数検出され、縄文時代の遺物がわずかに出土している。今回の調査区はトレンチャーによる搅乱を広範囲に受けたが、用途不明遺構1基を検出し、遺構外から石器がわずかに出土した。

G区は平成23年度に県埋蔵文化財調査センターが調査を実施したB・C区に隣接し、一部に現道を含む。周囲の調査では、縄文時代の溝状土坑と古代以降とみられる土坑が検出され、縄文時代の遺物がわずかに出土している。今回の調査では、縄文時代の溝状土坑3基を検出し、遺構外から縄文土器と石器がわずかに出土した。

(鈴木)

第2節 検出遺構

1 溝状土坑

第8号溝状土坑 [SV08] (図14)

【位置と確認】 G区、Ⅲ G-144・145 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】長軸387cm、短軸44cmの長楕円形を呈する。深さは90cmを測る。幅は南側がやや細くなっている。

【堆積土】5層に分層した。自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】壁面は、長軸方向南端部はやや抉り込んでフラスコ状となっているが、その他は上方に向かって開く形となり、短軸方向の断面形はV字状となる。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第9号溝状土坑 [SV09] (図14)

【位置と確認】 G区、Ⅲ G・Ⅲ H-142 グリッドに位置する。V層上面で検出した。北側の上部は木根により搅乱を受けている。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】長軸248cm、短軸97cmの長楕円形を呈する。深さは85cmを測る。幅はほぼ一定を保つ。

【堆積土】8層に分層した。6・7層は壁面の崩落土が主体となっており、その他の層も自然堆積の様

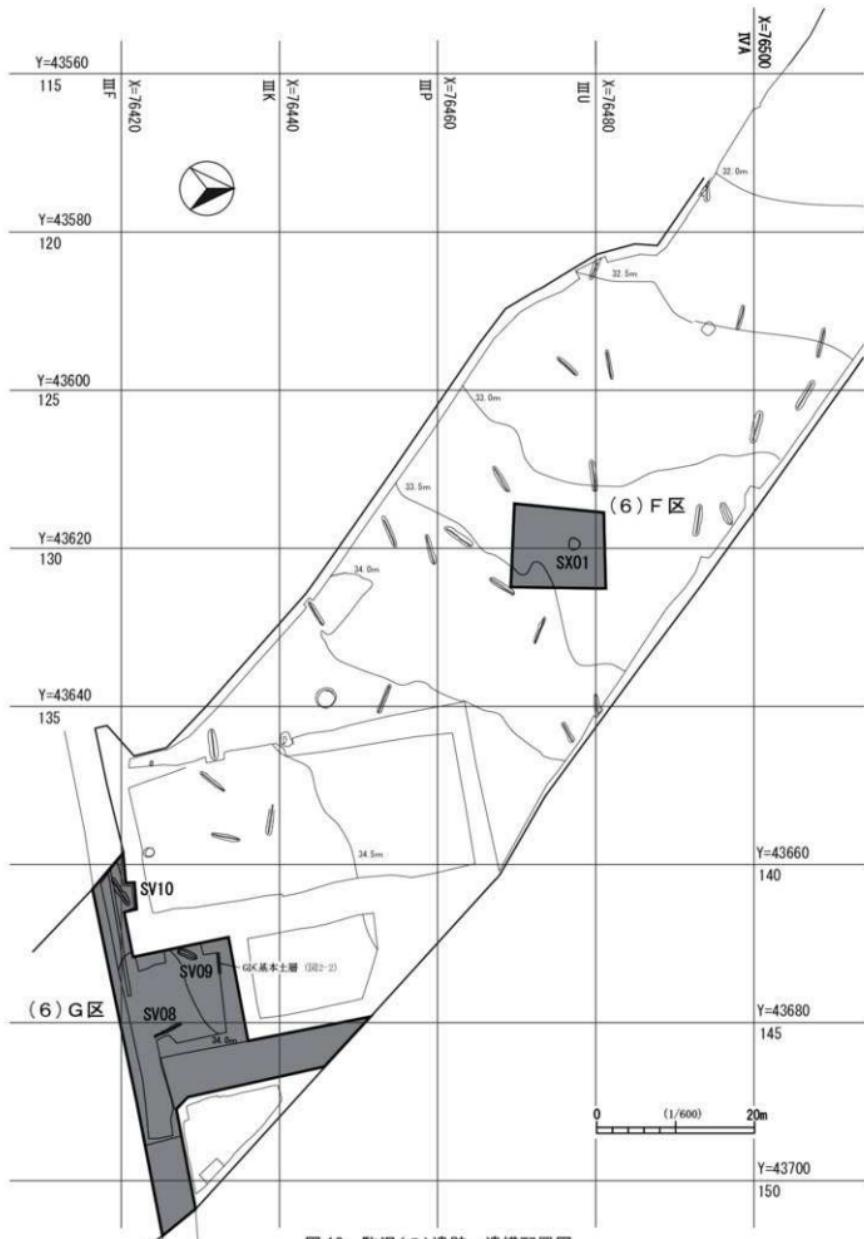


図 13 駒沢(6)遺跡 遺構配置図

相を呈する。

【壁面・底面】 壁面は、長軸方向端部はやや抉り込んでフ拉斯コ状となっている。短軸方向の断面形はほぼV字状となる。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】 なし。

【小結】 純文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第10号溝状土坑〔SV10〕(図14)

【位置と確認】 G区、Ⅲ E・Ⅲ F-140・141 グリッドに位置する。V層上面で検出した。遺構の南西部は調査区外に存在する。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸残存409cm、短軸85cmの長楕円形を呈する。深さは155cmを測る。幅はほぼ一定を保つ。

【堆積土】 8層に分層した。6層は壁面の崩落土が主体となっており、その他の層も自然堆積の様相を呈する。

【壁面・底面】 壁面は、緩やかに開いて立ち上がり、短軸方向の断面形はほぼV字状となる。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】 なし。

【小結】 純文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

2 用途不明遺構

第1号用途不明遺構〔SX01〕(図14)

【位置と確認】 F区、Ⅲ T-129・130 グリッドに位置する。V層上面で検出した。

【重複関係】 なし。

【規模・平面形】 長軸152cm、短軸143cmのほぼ円形を呈する。深さは8cmを測る。

【堆積土】 単層で、底面上に炭化材の散布が認められたが、遺存状態は悪い。

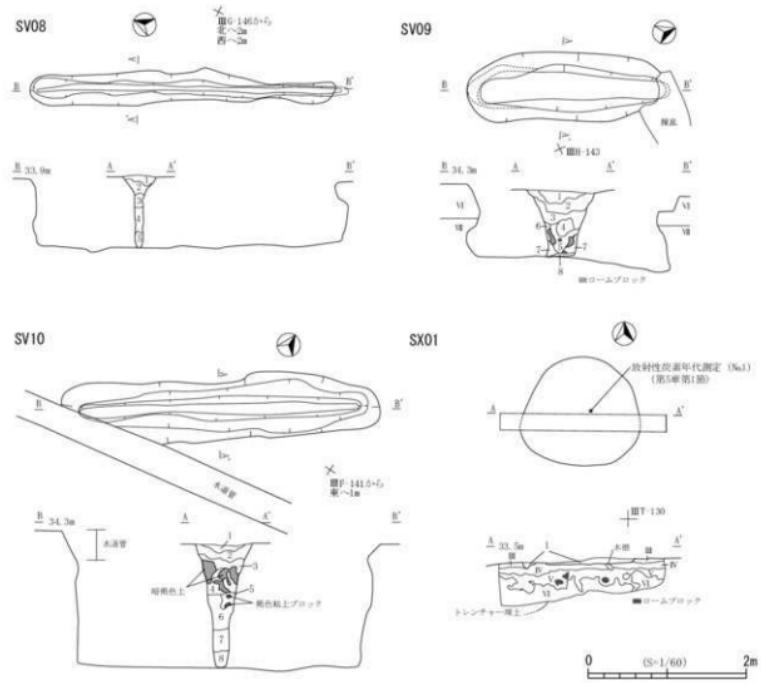
【壁面・底面】 検出面からの底面までは浅く、壁面は不明瞭である。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】 なし。

【その他】 出土炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、古代に相当する年代結果が得られている(第5章第1節)。

【小結】 放射性炭素年代測定の結果から、平安時代の遺構と考えられる。

(鈴木)



- SV08**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粘(4.1~5mm)2%, 中微浮石2%, しまりあり。
 - 2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粘(4.1~17mm)7%, 中微浮石5%, しまりあり。
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粘(4.1~15mm)10%, 中微浮石5%, しまりやや弱い。
 - 4層 10YR3/3 黄褐色土と10YR4/6褐色粘土との混合土(50%: 25%) ローム粘(4.1~15mm)10%, 粘性あり。
 - 5層 10YR4/6 褐色粘土 10YR3/2黒褐色土層分離的にブロックで混入。
- SV09**
- 1層 10YR2/1 黒色土 中微浮石50%, ローム粘(4.1~5mm)2%, 鉱層の崩落土。
 - 2層 10YR2/2 黑褐色土 10YR3/2褐色粘土20%, ローム粘(4.1~10mm)10%。
 - 3層 10YR3/3 黄褐色土 ローム粘(4.1~20mm)20%。
 - 4層 10YR5/8 黄褐色ロームと10YR4/6褐色粘土との混合土(50%: 50%) 錫明色土中にローム粘(4.1~10mm)10%, しまりあり。
 - 5層 10YR3/4 黄褐色土 10YR4/6褐色粘土30%, 黄褐色土ブロック(4.10~30mm)2%, しまり弱い。
 - 6層 10YR4/6 褐色粘土 下部はしまり弱い(崩落土), 上部はしまりあり。
 - 7層 10YR3/4 黄褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粘(4.1~5mm)20%。
 - 8層 10YR4/6 褐色粘土 10YR4/6褐色粘土20%, しまり弱い。
- SV10**
- 1層 10YR2/1 黒色土 中微浮石50%, ローム粘(4.1~5mm)2%, 鉱層の崩落土。
 - 2層 10YR2/2 黑褐色土 10YR3/2褐色粘土20%, ローム粘(4.1~10mm)10%。
 - 3層 10YR3/3 黄褐色土 ローム粘(4.1~20mm)20%。
 - 4層 10YR5/8 黄褐色ロームと10YR4/6褐色粘土との混合土(50%: 50%) 錫明色土中にローム粘(4.1~10mm)10%, しまりあり。
 - 5層 10YR3/4 黄褐色土 10YR4/6褐色粘土30%, 黄褐色土ブロック(4.10~30mm)2%, しまり弱い。
 - 6層 10YR4/6 褐色粘土 下部はしまり弱い(崩落土), 上部はしまりあり。
 - 7層 10YR3/4 黄褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粘(4.1~5mm)20%。
 - 8層 10YR4/6 褐色粘土 10YR4/6褐色粘土20%, しまり弱い。
- SX01**
- 1層 10YR2/1 黒色土 鉱化物(4.5~20mm)10%, 10YR5/8黄褐色ローム粘(4.1~5mm)2%, 中微浮石10%, 鉱化物含む。

図14 駒沢(6)遺跡 溝状土坑(SV)・用途不明構造(SX)

第3節 出土遺物

F区のIV層中、G区の埋め土中から少量の繩文土器の微細片が出土しているが、駒沢(5)遺跡調査区内出土遺物と比較しても僅かな出土量である。15図1・2は片面と側縁に磨面が、3・4は片面に磨面が、長端部に敲打痕が認められる叩き石・磨石である。

(秦)

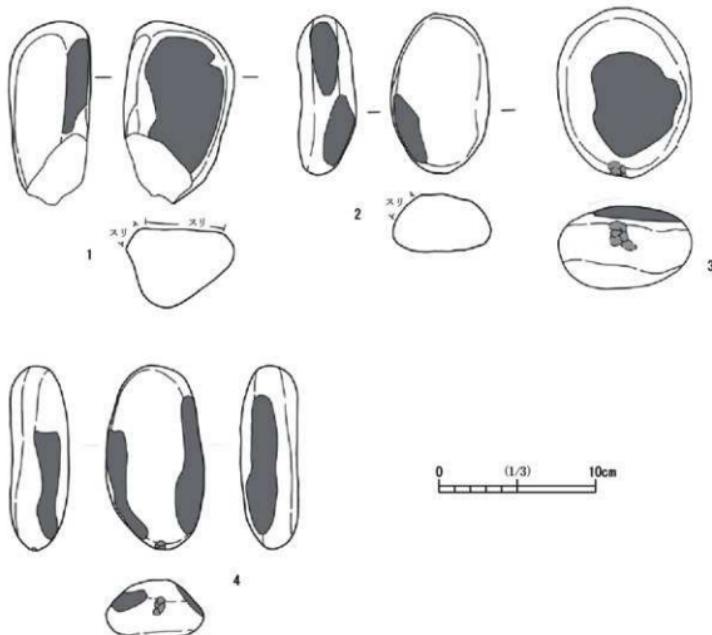


図 15 駒沢(6)遺跡 F・G区出土遺物

第5章 理化学的分析

第1節 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

駒沢(6)遺跡、駒沢(5)遺跡は、青森県三沢市三沢字猫又（駒沢(6):北緯 40° 41' 14"、東経 141° 20' 58"、駒沢(5):北緯 40° 41' 16"、東経 141° 20' 54"）に所在し、河岸段丘中位面、鰐沼川に挟まれた台地上に立地する。測定対象試料は、遺構や堆積層から出土した木炭の合計4点である（表1）。試料が出土した遺構、堆積層はいずれも古代と推定されている。駒沢(5)遺跡の試料No.4は、No.3が出土した SX04 の 50cm 下から出土した。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにし、遺跡の様相を検討する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除き、必要量の試料を採取、乾燥させ、秤量する（付表「処理前試料量」）。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させ、秤量する（付表「処理後試料量」）。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。
- (3) 必要量を採取、秤量（付表「燃焼量」）した試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製、定量する。この二酸化炭素中の炭素相当量を算出する（付表「精製炭素量」）。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。測定回数と ¹⁴C カウント数を付表に示す。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と記注する。 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は付表に記載する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age/yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 軟件 (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の測定結果を表1、2 及び付表に示す。

駒沢(6)遺跡出土試料 No.1 の ^{14}C 年代は $1180 \pm 20\text{yrBP}$ 、历年較正年代 (1σ) は $778 \sim 883\text{cal AD}$ の間に3つの範囲で示され、古代に相当する (佐原 2005)。

駒沢(5)遺跡出土試料の ^{14}C 年代は、No.2 が $1080 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.3 が $1130 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.4 が $2860 \pm 20\text{yrBP}$ である。历年較正年代 (1σ) は、No.2 が $903 \sim 995\text{cal AD}$ 、No.3 が $893 \sim 963\text{cal AD}$ 、No.4 が $1072 \sim 997\text{cal BC}$ の間に各々複数の範囲で示され、No.2, 3 は古代、No.4 は縄文時代晚期前葉頃に相当する (小林編 2008、佐原前掲)。No.3 と No.4 の測定結果は、試料の出土位置の上下関係に整合する。しかし、No.4 については、推定される古代よりも大幅に古い年代値が示された。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51(1), 337–360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器. 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55(4), 1869–1887
- 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分. 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集. ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻. 学生社, 14–19
- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data. *Radiocarbon* 19(3), 355–363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

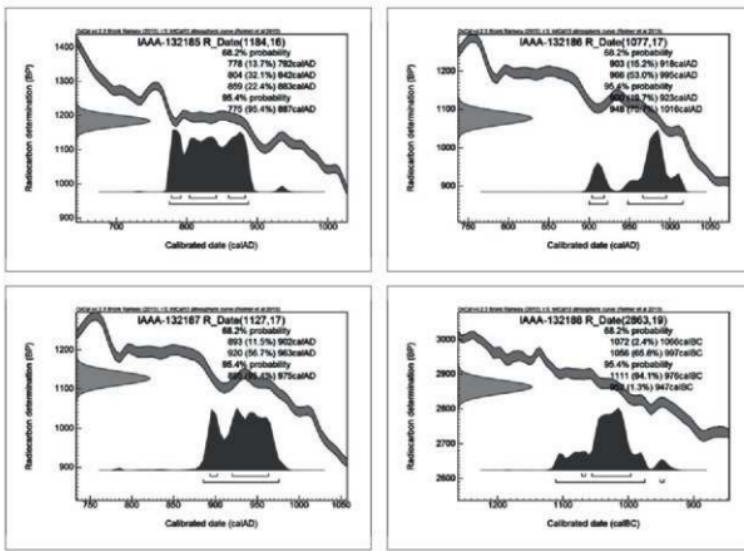
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-132185	No.1	駒沢(6)遺跡 F区 SX01, 炭-2 1層	木炭	AAA	-30.46 ± 0.28	1,180 ± 20	86.29 ± 0.18
IAAA-132186	No.2	駒沢(5)遺跡 D区 SX03, No.1 1層	木炭	AAA	-27.49 ± 0.29	1,080 ± 20	87.44 ± 0.20
IAAA-132187	No.3	駒沢(5)遺跡 D区 SX04, 炭-1 1層	木炭	AAA	-28.55 ± 0.23	1,130 ± 20	86.91 ± 0.19
IAAA-132188	No.4	駒沢(5)遺跡 D区 VA-48 グリッド 黒色土(Ⅲ層相当)	木炭	AAA	-27.20 ± 0.22	2,860 ± 20	70.01 ± 0.17

[#62216222]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1 σ 曆年範囲		2 σ 曆年範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)		778calAD - 792calAD (13.7%)	775calAD - 887calAD (95.4%)	903calAD - 918calAD (15.2%)	900calAD - 923calAD (19.7%)
IAAA-132185	1,270 ± 20	85.33 ± 0.17	1,184 ± 16	804calAD - 842calAD (32.1%)	966calAD - 995calAD (53.0%)	948calAD - 1016calAD (75.7%)	859calAD - 883calAD (22.4%)
IAAA-132186	1,120 ± 20	87.00 ± 0.19	1,077 ± 17	903calAD - 918calAD (15.2%)	900calAD - 923calAD (19.7%)	903calAD - 918calAD (15.2%)	900calAD - 923calAD (19.7%)
IAAA-132187	1,190 ± 20	86.28 ± 0.18	1,127 ± 17	920calAD - 963calAD (56.7%)	952calBC - 976calBC (65.8%)	985calAD - 975calAD (95.4%)	893calAD - 902calAD (11.5%)
IAAA-132188	2,900 ± 20	69.70 ± 0.16	2,863 ± 19	1072calBC - 1066calBC (2.4%)	1111calBC - 976calBC (94.1%)	1056calBC - 997calBC (65.8%)	952calBC - 947calBC (13%)

[参考値]



〔参考〕暦年校正年代グラフ

第2節 火山灰分析

弘前大学大学院・理工学研究科 柴 正敏

駒沢(5)・(6)遺跡より採集された、16の火山灰試料について、以下の観察を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表1に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。試料No.⑧AおよびNo.⑯の2試料について、電子プローブマイクロアナライザー（EPMA）を用いて、ガラスの化学組成を決定した（表2-1a、-1b、2-2および2-3）。

ガラスの形態及び構成鉱物（表1）、ならびにガラス粒子の発泡度・色・粒径分布、ガラスは以下のように帰属される：

(1) 白頭山苦小牧テフラ（B-Tm）と十和田aテフラ（To-a）のガラスが混合している試料。
(アルカリ長石、エジリンオージャイト、褐色ガラス及び石英（斑晶）を含み、ホルンブレンドを含まないもの)

・試料No.①A、No.②A、No.③A、No.⑥A、No.⑦AおよびNo.⑧A（計6試料）

表2-1a、-2bに、試料No.⑧AのB-Tmのガラス組成を示した。

(2) 主に十和田aテフラ（To-a）のガラスからなると推定される試料。

(アルカリ長石およびエジリンオージャイトを含まず、粗粒な軽石型ガラス、褐色ガラス、石英を含らる試料)。表2-2に試料No.⑯のTo-aのガラス組成を示した。

・試料No.③A、No.④A、No.⑨A、No.⑩A、No.⑪A、No.⑫A、No.⑬A、No.⑭A、No.⑯およびNo.⑰（計10試料）。なお、試料No.⑯には、十和田中振テフラ起源のガラス（表2-3参照）、ホルンブレンド2粒子も認められた。

参考文献

- 青木かおり・町田 洋 (2006)、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成 — K₂O-TiO₂図によるテフラの識別、地質調査研究報告、第57巻、第7/8号、239-258。
- Hayakawa, Y. (1985). Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.
- Machida, H.(1999). Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201。
- 町田 洋・新井房夫 (2003)、新編火山灰アトラス - 日本列島とその周辺、東京大学出版会、pp.336。
- 柴 正敏・重松直樹・佐々木 実 (2000)、青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成 (1)、弘前大学理工学部研究報告、第1巻、第1号、11-19。
- 柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実 (2001)、十和田火山、降下軽石の化学組成変化 - 宇樽部の一露頭を例として - 、弘前大学理工学部研究報告、第4巻、第1号、11-17。
- 柴 正敏・佐々木 実 (2006)、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第5号、322-325。

表1 三沢市駒沢(5)・(6)道跡の火山灰

試料 No	採取場所	層位	火山ガラス及び構成物	種属テフラ	特記事項
(1) A ① (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	III-1 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	プラントオバールを含む
(2) A ② (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	III-2a 壁 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	斜石粒子 (径1 mm) を含む
(3) A ③ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	III-2b 壁 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	プラントオバールを含む
(4) A ④ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	III-3 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(5) A ⑤ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	III-3 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(6) A ⑥ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-1 層 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	プラントオバールを含む
(7) A ⑦ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-1 層 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	
(8) A* ⑧ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-2a 壁 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、エリントージャイア、アルカリ長石、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, B-Tm	
(9) A ⑨ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-2b 壁 斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(10) A ⑩ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-4 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	プラントオバールを含む
(11) A ⑪ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-1 层	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(12) A ⑫ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	II-6 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(13) A ⑬ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	II-10 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(14) A ⑭ (6) 道跡 D 区 1トレ南壁	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	IV-6 层	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	
(15)* (15) (5) 道跡 C 区基本上層 (IVN-88)	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	9 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a, To-Cu	
(16) (5) 道跡 C 区基本上層 (IVN-88)	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	10 層	火山ガラス (pm>bw)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、单斜輝石、黄鐵矿	To-a	斜石粒子 (径3 mm) を含む

*EPMA分析を行った試料

表2-1a 駒沢(5)・(6)遺跡のB-Tm(1)(試料No. ⑧A)

重量%										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	68.27	0.36	13.84	4.32	0.16	0.01	0.84	5.78	5.48	99.05
2	64.49	0.67	14.29	4.54	0.13	0.12	1.20	5.48	5.55	96.27
3	68.05	0.39	14.06	4.39	0.17	0.09	1.10	5.67	5.77	99.70
4	66.02	0.39	14.21	4.06	0.13	0.12	1.00	5.87	5.34	97.15
5	68.00	0.30	13.98	4.20	0.10	0.06	0.94	5.92	5.65	99.14
6	66.30	0.36	14.24	4.17	0.11	0.03	1.03	4.29	5.34	95.86
7	66.93	0.45	14.64	4.43	0.19	0.25	1.23	6.26	5.85	100.21
8	66.39	0.40	15.22	4.52	0.22	0.08	1.30	5.98	5.78	99.78
9	66.66	0.22	15.01	4.56	0.04	0.09	1.37	5.90	5.93	99.78
10	64.29	0.34	13.69	4.10	0.11	0.08	1.01	5.86	5.28	94.75
II	62.07	0.33	13.80	4.37	0.13	0.11	1.17	5.76	4.91	92.63
	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
最小	62.07	0.22	13.69	4.06	0.04	0.01	0.84	4.29	4.91	92.63
最大	68.27	0.67	15.22	4.56	0.22	0.25	1.37	6.26	5.93	100.21
平均	66.13	0.36	14.27	4.33	0.14	0.09	1.10	5.70	5.53	97.67
標準偏差	1.88	0.07	0.50	0.18	0.06	0.06	0.15	0.31	0.30	2.51
100%に規格化した値										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	68.93	0.36	13.97	4.36	0.16	0.01	0.85	5.84	5.53	100
2	66.99	0.49	14.85	4.72	0.13	0.12	1.25	5.69	5.76	100
3	68.26	0.39	14.10	4.41	0.17	0.09	1.10	5.69	5.79	100
4	67.95	0.40	14.66	4.18	0.13	0.12	1.03	6.04	5.49	100
5	68.59	0.30	14.10	4.23	0.10	0.06	0.95	5.97	5.70	100
6	69.16	0.37	14.85	4.35	0.12	0.04	1.07	4.47	5.38	100
7	66.79	0.45	14.61	4.42	0.19	0.25	1.23	6.21	5.84	100
8	66.54	0.40	15.25	4.53	0.22	0.08	1.20	5.99	5.79	100
9	66.81	0.22	15.04	4.57	0.09	0.09	1.37	5.91	5.95	100
10	67.85	0.36	14.45	4.33	0.12	0.08	1.06	6.18	5.57	100
11	67.01	0.36	14.89	4.72	0.14	0.11	1.27	6.21	5.30	100
	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
最小	66.54	0.22	13.97	4.18	0.04	0.01	0.85	4.47	5.30	100
最大	69.16	0.49	15.25	4.72	0.22	0.25	1.37	6.24	5.95	100
平均	67.72	0.37	14.62	4.44	0.14	0.10	1.13	5.84	5.66	100
標準偏差	0.94	0.07	0.42	0.18	0.05	0.06	0.15	0.49	0.19	n=11 WDS
B-Tm (a) *	68.4	0.4	14.8	4.5	0.1	0.1	1	5.4	5.3	n=15 WDS

*: Machida (1999); **: 青木・町田 (2006); B-Tm: 白須山古小牧チフク; a: 分析ポイント数; WDS: 濃度分光型 EPMA

表2-1b 駒沢(5)・(6)遺跡、B-Tm(2)(試料No. ⑧A)

重量%										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	73.62	0.17	9.72	3.68	0.08	0.08	0.26	5.24	4.54	97.39
2	74.04	0.17	10.56	3.74	0.14	0.00	0.26	5.60	4.29	98.91
3	72.64	0.22	10.39	3.88	0.01	0.00	0.28	5.30	4.69	97.40
4	70.52	0.18	9.34	3.81	0.14	0.00	0.24	4.95	4.48	93.66
5	74.88	0.23	10.29	3.91	0.04	0.03	0.25	5.90	4.46	99.99
6	74.14	0.23	10.61	3.62	0.09	0.00	0.26	5.35	4.56	99.05
7	74.45	0.21	10.23	3.65	0.16	0.00	0.22	5.30	4.48	98.70
	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
最小	70.52	0.17	9.34	3.62	0.01	0.00	0.22	4.95	4.29	93.66
最大	74.88	0.23	10.61	3.91	0.16	0.08	0.28	5.90	4.69	99.99
平均	73.47	0.20	10.16	3.76	0.10	0.02	0.25	5.41	4.51	97.87
標準偏差	1.48	0.03	0.47	0.12	0.06	0.03	0.02	0.31	0.10	2.08
100%に規格化した値										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	75.59	0.18	9.99	3.78	0.09	0.08	0.27	5.38	4.66	100
2	74.86	0.18	10.68	3.78	0.15	0.00	0.26	5.66	4.44	100
3	74.58	0.21	10.66	3.98	0.01	0.00	0.29	5.44	4.82	100
4	75.30	0.19	9.97	4.07	0.15	0.00	0.25	5.28	4.78	100
5	74.89	0.23	10.29	3.91	0.04	0.03	0.25	5.90	4.46	100
6	74.85	0.23	10.71	3.66	0.09	0.00	0.26	5.60	4.60	100
7	75.43	0.21	10.37	3.69	0.17	0.00	0.23	5.37	4.54	100
	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
最小	74.58	0.18	9.97	3.66	0.01	0.00	0.23	5.28	4.44	100
最大	75.39	0.23	10.71	4.07	0.17	0.08	0.29	5.90	4.82	100
平均	75.07	0.21	10.38	3.84	0.10	0.02	0.26	5.52	4.61	100
標準偏差	0.37	0.02	0.32	0.15	0.06	0.03	0.02	0.22	0.15	n=19 WDS
B-Tm (a) *	75.3	0.2	10.7	4.1	0.1	0.1	0.3	4.7	4.5	n=19 WDS

*: Machida (1999); B-Tm: 白須山古小牧チフク; a: 分析ポイント数; WDS: 濃度分光型 EPMA

表2-2 駒沢(5)・(6)道跡、To-a (試料 No. 15)

重量 %										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	74.76	0.23	11.63	1.27	0.00	0.27	1.67	4.66	1.23	95.90
2	73.22	0.28	11.79	1.44	0.02	0.39	2.00	4.54	1.15	94.83
3	72.40	0.23	12.31	1.56	0.08	0.44	2.02	4.34	1.19	94.56
4	74.73	0.29	12.39	1.54	0.09	0.45	2.16	4.59	1.27	97.51
5	72.56	0.22	11.66	1.37	0.06	0.33	1.93	4.44	1.16	93.73
SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	
最小	72.40	0.22	11.66	1.27	0.00	0.27	1.67	4.34	1.15	93.73
最大	74.76	0.29	12.39	1.56	0.09	0.45	2.16	4.66	1.27	97.51
平均	73.53	0.25	12.00	1.44	0.05	0.38	1.95	4.51	1.20	95.31
標準偏差	1.15	0.03	0.33	0.12	0.04	0.08	0.18	0.13	0.05	1.46
100% に規格化した値										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	77.95	0.24	12.33	1.32	0.00	0.28	1.74	4.86	1.28	100
2	77.22	0.30	12.43	1.32	0.02	0.41	2.11	4.78	1.21	100
3	76.56	0.25	13.02	1.65	0.06	0.46	2.14	4.59	1.26	100
4	76.63	0.30	12.71	1.58	0.09	0.46	2.21	4.70	1.31	100
5	77.41	0.23	12.44	1.47	0.06	0.35	2.06	4.74	1.24	100
SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	
最小	76.56	0.23	12.33	1.32	0.00	0.28	1.74	4.59	1.21	100
最大	77.95	0.30	13.02	1.65	0.09	0.46	2.21	4.86	1.31	100
平均	77.16	0.26	12.59	1.51	0.05	0.39	2.05	4.73	1.26	100
標準偏差	0.58	0.03	0.28	0.12	0.04	0.08	0.18	0.10	0.04	0
To-a, Si>37	76.17	0.42	13.41	1.89	0.09	0.38	1.99	4.68	1.56	n=18
To-a, Si<36	77.69	0.36	12.74	1.66	0.09	0.35	1.80	3.99	1.31	n=8

青木・町田 (2006)

表2-3 駒沢(5)・(6)道跡、To-Cu (試料 No. 15)

重量 %										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	79.93	0.45	13.21	2.29	0.13	0.68	2.94	4.28	1.10	96.00
2	73.40	0.36	12.51	1.96	0.07	0.50	2.42	4.63	1.15	97.01
3	72.30	0.45	13.35	2.44	0.13	0.64	2.90	4.69	1.06	97.96
4	71.60	0.43	13.24	2.39	0.12	0.67	2.88	4.38	1.02	96.73
5	71.73	0.29	12.00	1.45	0.13	0.45	2.27	4.22	1.19	93.73
6	70.70	0.40	13.31	2.37	0.07	0.62	3.08	4.60	1.07	96.22
7	74.30	0.33	12.94	1.86	0.06	0.53	2.55	4.61	1.13	98.31
8	73.36	0.38	12.88	2.02	0.13	0.51	2.43	4.72	1.24	97.66
9	73.37	0.33	12.60	1.91	0.05	0.52	2.59	4.56	1.26	97.18
SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	
最小	70.70	0.29	12.00	1.45	0.06	0.45	2.27	4.22	1.02	93.73
最大	79.93	0.45	13.35	2.44	0.13	0.68	3.08	4.72	1.26	98.31
平均	72.41	0.38	12.99	2.08	0.10	0.57	2.67	4.52	1.13	96.76
標準偏差	1.26	0.06	0.45	0.33	0.04	0.08	0.28	0.18	0.08	1.37
100% に規格化した値										
No.	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total
1	73.89	0.47	13.76	2.39	0.14	0.70	3.07	4.46	1.14	100
2	75.66	0.37	12.99	2.02	0.07	0.52	2.50	4.77	1.19	100
3	73.81	0.46	13.63	2.49	0.13	0.65	2.96	4.79	1.08	100
4	74.02	0.45	13.69	2.47	0.12	0.69	2.98	4.53	1.05	100
5	76.52	0.31	12.81	1.55	0.14	0.48	2.42	4.50	1.27	100
6	73.47	0.41	13.84	2.46	0.07	0.64	3.21	4.78	1.12	100
7	75.58	0.34	13.17	1.89	0.06	0.54	2.59	4.69	1.15	100
8	75.12	0.39	13.19	2.07	0.13	0.52	2.48	4.83	1.27	100
9	75.50	0.34	12.96	1.96	0.05	0.54	2.67	4.69	1.30	100
SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	
最小	73.47	0.31	12.81	1.55	0.05	0.48	2.42	4.46	1.05	100
最大	76.52	0.47	13.84	2.49	0.14	0.70	3.21	4.83	1.30	100
平均	74.84	0.39	13.33	2.15	0.10	0.59	2.76	4.67	1.17	100
標準偏差	1.07	0.06	0.40	0.33	0.04	0.09	0.29	0.14	0.09	0
To-Cu, Si>40	74.86	0.47	14.00	2.27	0.09	0.54	2.49	3.96	1.31	n=18
To-Cu, Si<38	75.36	0.43	13.65	2.35	0.11	0.52	2.35	4.01	1.22	n=8

青木・町田 (2006)

第6章 総括

駒沢(5)遺跡、駒沢(6)遺跡は、三沢市街地から西へ約2kmに位置し、東から流れる古間木川が、南から流れる姉沼川に合流する地点に面した標高30m前後の丘陵端部に立地する遺跡である。本事業に係る発掘調査区は、両遺跡の中央部を東西に横断するように延び、駒沢(5)遺跡の西端は、姉沼川沿いに発達した沖積低地に面する急崖地形となっている。

遺跡が立地する周辺丘陵上には縄文時代から平安時代までの遺跡が数多く所在しており、縄文時代から平安時代にかけて断続的に遺跡が営まれていた地域といえる。

○駒沢(5)遺跡

今回の発掘調査で検出した遺構は、縄文時代の土坑1基、溝状土坑5基、平安時代の用途不明遺構2基、時期不明の土坑8基、用途不明遺構2基である。出土した遺物は、縄文時代早期前葉～前期前葉に位置付けられる土器を主体とし、その他、縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられる土器が出土している。このような遺構と遺物の様相は、これまでの調査成果と同様であり、今回の調査でも、本遺跡が縄文時代には狩猟場として利用されたことが改めて明らかとなった。

丘陵上部では、これまでの調査で平安時代の土坑が検出されており、平安時代に丘陵上が利用されていたことは明らかとなっていた。今回の調査では、西端の斜面地は地割れや地滑りを繰り返しながら現況の地形が形成されたことが明らかとなり、さらに、この地滑りにより形成された沖積地に近い低位の平坦面上から平安時代の焼土や炭化物を含む遺構が検出された。このことから、平安時代には丘陵斜面部も含めた広域な土地利用が行われていたことが明らかとなった。

○駒沢(6)遺跡

今回の調査で検出した遺構は、縄文時代の溝状土坑3基と平安時代とみられる用途不明遺構1基である。溝状土坑は、これまでの発掘調査で検出されている溝状土坑の分布範囲の南東端にあたるものである。遺物は、今回の調査では磨石と叩き石が各2個出土したのみであるが、これまでの調査では縄文時代前期前葉を主体とする土器が出土していることから、本遺跡は、当該時期の狩猟場であったと考えられる。

用途不明遺構は、底面で炭化物が比較的まとまった状態で出土し、放射性炭素年代測定の結果から平安時代の可能性が高い遺構と考えられるものである。西側に接する平成23年度調査区では古代以降とみられる製炭土坑が検出されており、本遺構も同様の性格をもつ遺構の可能性が高く、平安時代においても何らかの土地利用が行われていたと考えられる。

(鈴木)

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1976『千歳(13)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第27集
- 青森県教育委員会 1984『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第82集
- 青森県教育委員会 1990『表館(1)遺跡IV・発茶沢(1)遺跡V』
- 青森県教育委員会 1991『中野平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第134集
- 青森県教育委員会 2007『湯野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第431集
- 青森県教育委員会 2010『青森県遺跡詳細分布調査報告書22』青森県埋蔵文化財調査報告書第493集
- 青森県教育委員会 2012『青森県遺跡詳細分布調査報告書24』青森県埋蔵文化財調査報告書第523集
- 青森県教育委員会 2013『駒沢(5)遺跡・駒沢(6)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第529集
- 江坂輝彌 1952『日本始原文化の起源問題』『古代学』1-2
- 江坂輝彌 1956『各地域の縄文式土器』『日本考古学講座』3 河出書房
- 佐藤達夫・角鹿扇三・二本柳正一 1959『青森県上北郡早稲田貝塚』『考古学雑誌』第43卷第2号
- 高橋亜貴子 1992『東北地方前期前葉組縄縄文について』『東北文化論のための先史学歴史学論集』
- 加藤稔先生還暦記念会
- 茅野嘉雄 2002『第10章第2節 いわゆる結節回転文について』『畠内遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
- 三沢市教育委員会平3年a『平畠(5)遺跡I』三沢市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 三沢市教育委員会平3年b『平畠(5)遺跡II』三沢市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 三沢市教育委員会 1996『平畠(3)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書14集
- 三沢市教育委員会 1999『小山田(2)遺跡 天狗森(3)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 三沢市教育委員会 2010『天狗森貝塚 天狗森(2)遺跡発掘調査報告書』三沢市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 三沢市教育委員会 2011a『駒澤(5)遺跡 駒澤(6)遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 三沢市教育委員会 2011b『猫又(1)遺跡II 遺構編2』三沢市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 武藤康弘 1991『東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究II—円筒下層a式直前の土器群をめぐって—』『考古学雑誌』第76卷第3号

表2 駒沢(5)遺跡 遺構一覧表

図	遺構番号	区	位 置	長軸	短軸	深さ	備考
				(cm)	(cm)	(cm)	
7	SK01	C	IV L-101	(230)	162	20	
7	SK02	C	IV K-102	267	226	14	
7	SK03	C	IV L・IV M-100	161	(64)	8	
7	SK04	C	IV M-99・100	124	(73)	9	
7	SK05	C	IV K-99	79	67	11	
7	SK06	C	IV J・IV K-98	146	117	17	
7	SK07	C	IV K-97・98	135	118	39	
7	SK08	C	IV M・IV N-96・97	192	190	10	
7	SK09	D	IV U・IV V-64・65	198	197	16	
8	SV02	C	IV J・IV K-105	359	52	71	N-11° -W
8	SV03	C	IV J・IV K-104・105	399	65	100	N-32° -W
8	SV04	C	IV M-96・97	350	49	82	E-5° -N
8	SV05	C	IV O-90	397	72	80	N-45° -E
8	SV06	D	IV Y-56・57	350	72	116	E-21° -N
9	SX01	C	IV J・IV K-103・104	269	188	14	
9	SX02	C	IV J・IV K-100	487	192	30	
9	SX03	D	IV Y-48	80	72	—	
9	SX04	D	V A-48	78	39	—	

表3 駒沢(6)遺跡 遺構一覧表

図	遺構番号	区	位置	長軸	短軸	深さ	備考
				(cm)	(cm)	(cm)	
14	SV08	G	III G-144・145	387	44	90	N-28° -W
14	SV09	G	III G・III H-142	(248)	97	85	N-25° -E
14	SV10	G	III E・III F-140・141	(409)	85	155	E-35° -N
14	SX01	F	III T-129・130	152	143	8	

表4 駒沢(5)遺跡 繩文土器観察表

図-N _o	出土 区	出土位置	層位	器種	部位	外面文様	内面	胎土混入・ 成形技法	分類	備考
10-1	C区 (IV R-84)	一括	底深鉢	底部	縦裏ミガキ	不明	外輪接合	I a	図11-3～7と同一個体?	
10-2	C区	一括	深鉢	胴部	R 単軸3°斜回	ミガキ	繩維混入	II c		
10-3	C区	IV N-88	II	深鉢	胴部下位	結束2(LR+LR)横回 →底面際ミガキ			III	
11-1	D区	IV X-51	VI-1	(底深)深鉢	口縁部	縦裏条痕→直列、並 列爪形刺突→横ナデ。 口端刺突	残存不良	内輪接合	I a	11-2と同一個体
11-2	D区	IV X-51	VI-1	(底深)深鉢	胴部上位	横ミガキ→連続爪形 刺突	不明	内輪接合	I a	11-1, 11-5と同一個体
11-3	D区	IV X-51	VI-1	底深鉢	胴部下位	(縦裏条痕→)斜位ミ ガキ	剥落	外輪接合	I a	図10-1, 11-3・5～ 7と同一個体
11-4	D区	IV X-51	VI-1	(底深)深鉢	胴部中～ 下位	斜位ミガキ	剥落	繩維少量混入、 外輪接合	I a	図10-1, 11-3・5～ 7と同一個体
11-5	D区	IV W-51	V	(底深)深鉢	胴部下位	(条痕)→乱雜なミガ キ	ナデ	外輪接合	I a	図10-1, 11-3・4・6・ 7と同一個体
11-6	D区	IV X-51	VI-1	底深鉢	底部	斜位ミガキ	ナデ	外輪?接合	I a	図10-1, 11-3～5・ 7と同一個体
11-7	D区	V A-47	VI-1	底深鉢	底部	縦裏ミガキ	不明	外輪接合	I a	図10-1, 11-3～6 と同一個体?
11-8	D区	V R-48	VI-1	底深鉢	底部	乳頭状突起、浅い幅広 の沈線による弧状文	残存不良		I b	
11-9	D区	IV Y-54	VI-1	深鉢	口縁部	LR 横回, 口縁面取り		横位ヘラ ナデ	繩維微量混入、 外輪接合	II a
11-10	D区	IV Y-54	VI-1	深鉢	口縁部	LR 横回, 口縁面取り		横・斜位 ヘラナデ	繩維微量混入	II a
11-11	D区	IV I-61	III	深鉢	胴部	RL又は粗縄横回		粗いナデ	繩維混入	II a

駒沢(5)遺跡・駒沢(6)遺跡II

図-N _o	出土区	出土位置	層位	器種	部位	外面文様	内面	胎土混入・成形技法	分類	備考
11-12	D区	IV X-51	VI-1	深鉢	胴部中～下位	LR 横回	指頭圧痕、粗いナデ	織維少量混入、外頸接合	II a	
11-13	D区	V B-48	VI-1	(尖底)深鉢	胴部上位	LR 縦・横回		織維混入、外頸接合	II a	
11-14	D区	IV U・V-64	III	(尖底)深鉢	胴部	LR 横回	縦ミガキ	織維混入	II a	
11-15	D区	IV X-51	VI-1	深鉢	口縁部	結合I(LR+LR:自縫結縫付)	横ナデ	織維混入	II b	
11-16	D区	IV W-52	IV-6	深鉢	口縁部	0段多条LR 横回、口端面取り	横ナデと条痕	織維混入、内頸接合	II b	
11-17	D区	V A-51	VI-1	深鉢	口縁部	組織横回→口端面取り	横・斜径ナデ	織維混入、外頸接合	II b	
11-18	D区	V A-47	VI-1	深鉢	口縁部	組織横回→口端面取り	横ナデ	織維混入、外頸接合	II b	
11-19	D区	IV Y-47	IV	深鉢	口縁部	RL 横・斜回、口端縫文施文	横ナデ(一部条痕)	織維混入	II b	
11-20	D区	IV V-51・IV W-52	III・IV-6	深鉢	胴部	組織横回	横ナデ	織維混入	II b	
11-21	D区	IV I-60	III	装飾貼付		R 単軸I側圧、一部に爪形刺		織維混入	III	
11-22	D区	IV Y-57	I		口縁部	L 単軸I溝形側圧		織維混入	III	
11-23	D区	IV V-64	III	深鉢	口縁部	波状・玉縁状口縁→L側圧、貼付帯(剥落)→L並列側圧			III	補修孔あり
11-24	D区	IV Y-55	IV-6	深鉢	口縁部	貼付帯→R側圧によく刺み	ミガキ		III	
11-25	D区	IV Y-55	IV-6		口縁突起	L側圧、ヘラ刺突	ミガキ	織維混入	III	
11-26	D区	IV U-64	II		口縁部	RL(縫端結縫付)横回、口端R刺み	ミガキ		III	
11-27	D区	IV U-62	2tr埋土	深鉢	胴部上位	貼付帯→LR側圧→RL横回	横ミガキ		III	
11-28	D区	IV Y-55	IV-6	深鉢	胴部	LR 斜面形側圧	横ミガキ		III	

表5 駒沢(5)遺跡 石器観察表

図-N _o	出土区	出土位置	層位	器種	備考	石材	長 mm	幅 mm	厚 mm	重量 g
10-4	C区	一括		埋土	磨石	扁平円錐の片面に弱い磨面を形成	砂岩	10.8	9.2	3.8 538.0
12-1	D区	IV W-52	VI-1		石瓢		珪質頁岩	3.3	1.6	0.7 3.9
12-2	D区	IV W-52	VI-1		石匙		珪質頁岩	6.0	3.2	1.0 10.8
12-3	D区	IV W-53	VI-1	二次加工調片	折損 片面調整		珪質頁岩	[2.2]	[1.4]	0.6 1.3
12-4	D区	V A-47	VI-1	二次加工調片			珪質頁岩	2.7	2.2	0.7 2.9
12-5	D区	IV V-65	III	磨製石斧	先端部折損		閃緑岩	[10.4]	5.3	3.0 272.2
12-6	D区	IV V-65	III	柱状礫加工品	先端部と一個縁に打ち欠きと磨面に敲打痕		流紋岩	22.0	6.3	4.7 957.6
12-7	D区	V B-48	VI-1	磨石	扁平円錐の片面に弱い磨面、側縁は強く摩滅	砂岩	21.2	8.2	4.2 1.017.6	
12-8	D区	IV X-50	IV	石瓢	縫辺部破片		安山岩	[6.7]	[8.7]	5.8 546.0
12-9	D区	V A-47	VI-1	磨石	扁平円錐の両面に明瞭な磨面を形成	安山岩	[9.6]	[6.1]	6.5 402.1	

表6 駒沢(6)遺跡 石器観察表

図-N _o	出土区	出土位置	層位	器種	備考	石材	長 mm	幅 mm	厚 mm	重量 g
15-1	F区	III F-130	IV	磨石	亜円錐の片面と側縁に磨面形成	ディサイト	11.6	6.9	5.1 430.7	
15-2	G区	一括		埋土	磨石	扁平円錐使用、縫辺に2箇所明瞭な磨面	頁岩	10.0	6.2	3.6 321.9
15-3	G区	一括		埋土	叩き石・磨石	扁平円錐の片面に磨面	安山岩	10.2	8.3	5.2 565.9
15-4	G区	一括		埋土	叩き石・磨石	扁平円錐素材 壓面は兩個縁に棱を成す	頁岩	11.5	6.1	3.6 385.5
						敲打痕は長軸上の1端に				

写 真 図 版



調査区遠景（南東から）



調査区遠景（西から）

写真図版1 駒沢(5)・(6)遺跡



出土遺物



駒沢(5)遺跡 D区地滑り痕 [1 トレンチ南壁] (北から)

写真図版2 駒沢(5)遺跡



調査区完掘〔北側〕（東から）



調査区完掘〔南側〕（東から）



基本土層〔調査区南壁〕（北から）

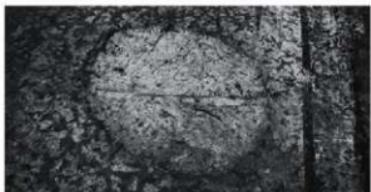
写真図版3 駒沢(5)遺跡 C区



第1号土坑 完掘（南から）



第1号土坑 断面（南から）



第2号土坑 完掘（東から）



第2号土坑 断面（東から）



第3号土坑 完掘（南から）



第3号土坑 断面（南から）



第4号土坑 完掘（南から）



第4号土坑 断面（南から）

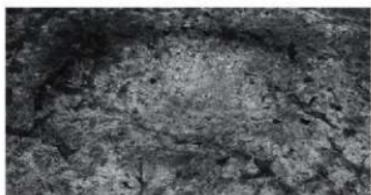


第5号土坑 完掘（東から）

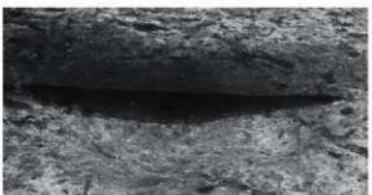


第5号土坑 断面（東から）

写真図版4 駒沢(5)遺跡 C区



第6号土坑 完掘（東から）



第6号土坑 断面（東から）



第7号土坑 完掘（東から）



第7号土坑 断面（東から）



第8号土坑 完掘（東から）



第8号土坑 断面（東から）



第2号溝状土坑 完掘（南から）



第2号溝状土坑 断面（南から）



第3号溝状土坑 完掘（南から）

写真図版5 駒沢(5)遺跡 C区



第3号溝状土坑 断面（南から）



第4号溝状土坑 完掘（東から）



第4号溝状土坑 断面（東から）



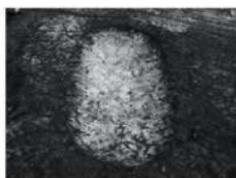
第5号溝状土坑 完掘（北東から）



第5号溝状土坑 断面（北東から）



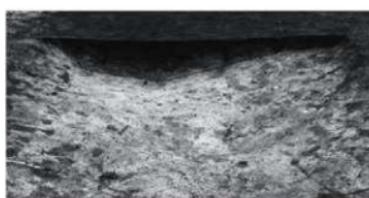
第1号用途不明遺構 完掘（南から）



第2号用途不明遺構 完掘（南から）



第1号用途不明遺構 断面（北東から）

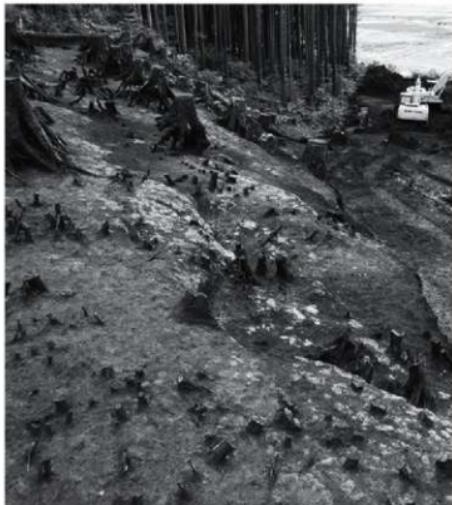


第2号用途不明遺構 断面（南から）

写真図版 6 駒沢(5)遺跡 C区



調査区上段完掘（西から）



調査区上段 地割れ痕 検出（東から）



調査区上段 地割れ痕 断面（北東から）



調査区上段 第9号土坑 完掘（南東から）

写真図版7 駒沢(5)遺跡 D区



調査区中・下段全景（西から）手前黒色土は下段地割れ痕に伴う二次堆積土



調査区中段 地滑り層断面（北東から）

写真図版 8 駒沢(5)遺跡 D区

駒沢(5)遺跡II・駒沢(6)遺跡II



調査区中段 4トレンチ黒色面検出状況（西から）



調査区中段 4トレンチ 完掘（東から）



調査区中段 4トレンチ 断面（北東から）



調査区中段 第6号溝状土坑 完掘（南西から）



調査区下段 第3号用途不明遺構 検出（北から）



調査区下段 第3号用途不明遺構 断面（北西から）



調査区下段 第4号用途不明遺構 検出（北から）



調査区下段 第4号用途不明遺構 断面（東から）

写真図版9 駒沢(5)遺跡 D区

F区



調査区完掘（東から）



第1号用途不明遺構 完掘（北から）



第1号用途不明遺構 断面（南から）



第1号用途不明遺構 底面炭化物検出（北東から）

G区



調査区完掘〔北側〕（東から）



基本土層（南から）



調査区完掘〔南側〕（西から）

写真図版 10 駒沢(6)遺跡 F・G区



第8号溝状土坑 完掘（北から）



第8号溝状土坑 断面（北から）



第9号溝状土坑 完掘（南西から）



第9号溝状土坑 断面（南西から）



第10号溝状土坑 完掘（西から）



第10号溝状土坑 断面（西から）

写真図版 11 駒沢(6)遺跡 G区



写真図版 12 出土遺物 土器



12-8



写真図版 13 出土遺物 石器

報告書抄録

ふりがな	こまさわかっこごいせきに	こまさわかっころくいせきに				
書名	胸沢(5)遺跡 II・胸沢(6)遺跡 II					
副書名	県道八戸野辺地線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告					
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第554集					
編著者名	鈴木 和子・秦 光次郎					
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター					
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城田内 152-15	TEL 017-788-5701				
発行機関	青森県教育委員会					
発行年月日	2015年3月26日					
所取遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)
	市町村	遺跡番号	世界測地系 (JGD2000)			
青森市野辺地三沢地区 大字三沢字下野 又外	02207	207061	40° 41' 18"	141° 20' 50"	20130903 /	3,700
青森市野辺地三沢地区 大字三沢字下野 又外	02207	207062	40° 41' 15"	141° 20' 60"	20131114	600
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
胸沢(5)遺跡	散布地	縄文時代	溝状土坑 土坑	5 縄文土器 1 石器		
		平安時代	用途不明遺構	2 土師器		
		不詳	土坑 用途不明遺構	8 2		
胸沢(6)遺跡	散布地	縄文時代	溝状土坑	3 縄文土器		
		平安時代	用途不明遺構	1 石器		
要約	胸沢(5)・(6)遺跡は、三沢市街地より北西約2kmに位置し、姉沼へと流れる姉沼川と古間木川の合流地点に面した標高30m 前後の丘陵端部に立地する。					
	平成25年4月、胸沢(5)遺跡は2地区で調査を行った。丘陵上のC区で溝状土坑4基、土坑8基、用途不明遺構2基を検出した。丘陵縁辺部とそこから緩く急斜面地にあたるD区では、丘陵上で縄文時代の土坑1基、中段平坦地の崩落土中で溝状土坑1基を検出した。さらには下位の低位平坦地で古代の用途不明遺構2基を検出し、その周辺では古代の遺物や炭化灰・焼土の広がりを確認した。また、丘陵縁辺で複数の地割痕跡を確認し、急斜面地では地割りと崩落の痕跡を確認した。崩落と地割りは幾度かが発生したことが確認でき、現況地形は白頭山火山灰降下以降の大規模な地割りにより形成されたことが明らかとなった。					
	胸沢(6)遺跡では、F区で用途不明遺構1基、G区で溝状土坑3基を検出した。					
	胸沢(5)・(6)遺跡では、これまでの発掘調査では溝状土坑を主体とした遺構の広がりを確認しており、今回の調査成果を合わせると、丘陵上は主に縄文時代の狩猟場であったことが改めて明らかとなつた。また、胸沢(5)遺跡西端の急斜面は地割りにより形成されたもので、下位の平坦面は、古代には何らかの土地利用が行われていたことが明らかとなつた。					

青森県埋蔵文化財調査報告書第554集

駒沢（5）遺跡Ⅱ 駒沢（6）遺跡Ⅱ

-県道八戸野辺地線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告-

発行年月日 2015年3月26日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL. 017-788-5701 FAX. 017-788-5702

印 刷 やまと印刷株式会社
〒036-8061 青森県弘前市神田4-4-5
TEL. 0172-34-4111
